大東市埋蔵文化財調査報告第28集

鍋田川遺跡 Ⅲ

―大阪産業大学校舎（15号館）建設に伴う発掘調査報告書―

２００８年３月

大東市教育委員会

大東市埋蔵文化財調査報告第28集

鍋田川遺跡 Ⅲ

―大阪産業大学校舎（15号館）建設に伴う発掘調査報告書―

２００８年３月

大東市教育委員会

1．調査地遠景（西より）

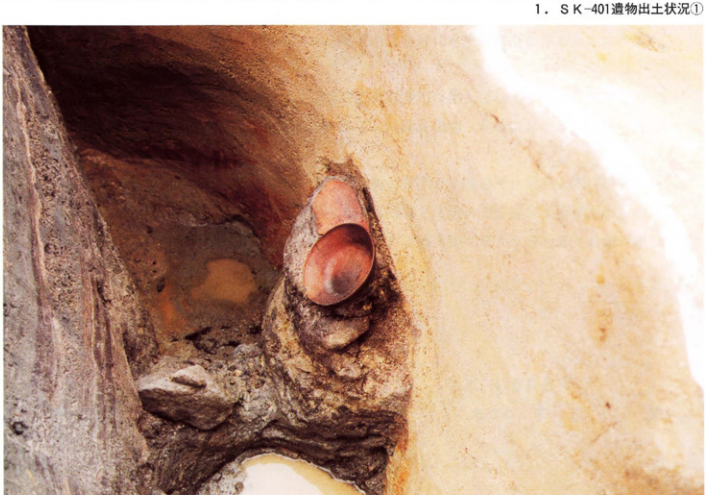
1．土器群（南東より）

2．同上（接写）

1．第4遺構面東半部（北西より）

2．ＳＫ－401・402（北西より）

1．ＳＫ-401遺物出土状況①



2．ＳＫ-401遺物出土状況②

序　　文

大阪府の北東部に位置する大東市は、東部に飯盛山を含む生駒山系が南北に連なり、西部では古くに河内湾、河内湖、また江戸時代中頃までは深野池という大きな池が存在し、山や海・池などに縁取られた多様な地形環境のなかで古来より豊かな自然を有してきました。

そのような環境のなかでわたしたちの先人達は個性豊かな歴史、文化を育み、その足跡として遺跡や神社仏閣、様々な美術工芸品など、いわゆる文化財が数多く残され今日に至っています。

鍋田川遺跡は昭和33年に鍋田川の砂防堰堤工事の際に発見されて以来、その特異な出土遺物からたいへん注目されてきた遺跡でありましたが、今回の報告書はその第３次発掘調査の成果であります。その内容としましては従来の調査成果と同様、縄文から近世に至る貴重な成果をあげることができましたが、特に古墳時代から奈良時代にかけての成果については新たな知見を得ることができ、従来から言われてきました遺跡の特異性と共に、さらに遺跡周辺を含めた古代史像を明らかにできたものと思われます。

今後、これらの成果を市民共有の財産として活用していくと共に、本報告書が本市の歴史や文化を知る基礎資料として活用され、歴史や文化財に対する理解を深めるための契機となれば幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査および整理作業の費用負担をはじめ多大なご協力を賜りました大阪産業大学をはじめ、お世話になりました関係機関・各位に対しまして厚くお礼申し上げます。

また教育委員会では、今後とも先人より受け継いできた貴重な文化財を大切に保存・活用し、未来を担う次世代に託したく努力する所存でありますので、市民の皆様方におかれましては今後とも本市の文化財保護行政にご理解、ご協力賜りますよう心よりお願い申し上げます。

平成20年３月

大東市教育委員会
教育長　中　口　　馨

例　　言

1．本書は、大阪府大東市中垣内３丁目における鍋田川遺跡発掘調査（ＮＢＴ98－１）の報告書である。
2．調査は大学校舎建設に伴うもので、学校法人大阪産業大学より依頼を受け、大東市教育委員会が実施した。
3．発掘調査および整理作業は大東市立歴史民俗資料館、中逃健一（現、生涯学習課）が担当した。
4．本調査に係る費用については学校法人大阪産業大学がこれを負担した。記して感謝の意を表する。
5．調査面積は511.94㎡。調査期間は平成10年８月３日～同年11月21日である。
6．現地調査における遺構等その他測量にあたっては阪奈ソーケン株式会社が実施した。また作図等の記録作業については大林組・大末建設共同企業体大阪産大ＪＶ工事事務所の西川雅友氏、横田友太氏の協力を得た。
7．整理作業にあたっては下記の諸氏の協力を得た。（敬称略、五十音順）
　谷崎光子、樋口里美、宮田八重子
8．本調査における基準点、水準点の設置については、阪急航空株式会社に委託した。
9．本調査で使用した座標は国土座標第Ⅵ系であり、方位は座標北を使用している。また、標高はＴ．Ｐ．（東京湾平均海面値）である。尚、国土座標の数値については日本測地系での表示である。
10．報告書作成に係る一部図面作成、遺物一覧表、遺物写真撮影については、大東市教育委員会の指導のもと、財団法人元興寺文化財研究所に委託した。
　また、一部出土品の分析・保存処理についても、財団法人元興寺文化財研究所に委託した。
11．本書の執筆、編集は中逵が行った。
12．本調査に関わる出土遺物、実測図、写真、カラースライド等の各資料は大東市立歴史民俗資料館において保管している。広く利用されることを希望する。

本 文 目 次

序文
例言
第１章　調査に至る経緯 …… 1
第２章　遺跡の位置と環境 …… 2
第３章　調査の方法 …… 5
第４章　調査成果
　第１節　基本層序 …… 6
　第２節　第１遺構面 …… 10
　第３節　第２遺構面 …… 13
　第４節　第３遺構面 …… 15
　第５節　第４遺構面 …… 19
第５章　まとめ …… 23

挿 図 目 次

第１図　調査地位置図 …… 1
第２図　大東市位置図 …… 2
第３図　周辺遺跡分布図 …… 4
第４図　調査区区割図 …… 5
第５図　調査区北壁断面図（１） …… 7～8
第６図　セクション①断面図 …… 7～8
第７図　調査区東壁断面図 …… 9
第８図　調査区北壁断面図（２） …… 9
第９図　第１遺構面遺構配置図 …… 10
第10図　第１遺構面全体図 …… 11
第11図　第２遺構面遺構配置図 …… 13
第12図　第２遺構面全体図 …… 14
第13図　第３遺構面北東部遺構配置図 …… 15
第14図　第３遺構面全体図 …… 16
第15図　土器群出土状況図 …… 17
第16図　第４遺構面全体図 …… 20
第17図　ＳＫ－401・402平・断・遺物出土状況図 …… 21
第18図　ＮＲ－402遺物出土状況図 …… 22
第19図　ＮＲ－402各土器出土状況図 …… 22
第20図　ＮＲ－301出土遺物（１） …… 27
第21図　ＮＲ－301出土遺物（２） …… 28

第22図　ＮＲ－301出土遺物（３）…… 29
第23図　ＮＲ－301出土遺物（４）…… 30
第24図　ＮＲ－301出土遺物（５）…… 31
第25図　土器群出土遺物（１）…… 32
第26図　土器群出土遺物（２）…… 33
第27図　土器群出土遺物（３）…… 34
第28図　ＳＫ－401出土遺物…… 35
第29図　ＳＫ－402出土遺物…… 36
第30図　ＮＲ－401出土遺物（１）…… 37
第31図　ＮＲ－401出土遺物（２）…… 38
第32図　ＮＲ－401出土遺物（３）…… 39
第33図　ＮＲ－401出土遺物（４）…… 40
第34図　ＮＲ－402出土遺物（１）…… 41
第35図　ＮＲ－402出土遺物（２）…… 42
第36図　ＮＲ－402出土遺物（３）…… 43
第37図　ＮＲ－402出土遺物（４）…… 44
第38図　ＮＲ－402出土遺物（５）…… 45
第39図　ＮＲ－403出土遺物（１）…… 46
第40図　ＮＲ－403出土遺物（２）…… 47
第41図　第Ⅹ層出土遺物…… 48

表　目　次

第１表　出土遺物一覧表…… 49

写真図版目次

巻頭カラー図版１
　１．調査地遠景（西より）
巻頭カラー図版２
　１．土器群（南東より）　２．同上（接写）
巻頭カラー図版３
　１．第４遺構面東半部（北西より）　２．ＳＫ－401・402（北西より）
巻頭カラー図版４
　１．ＳＫ－401遺物出土状況①　２．ＳＫ－401遺物出土状況②
図版１　遺構(1)
　１．調査地遠景（西より）　２．第１遺構面全景（南東より）
図版２　遺構(2)

1．第２遺構面東半部（北西より）　2．第２遺構面全景（南東より）
図版３　遺構(3)
1．第３遺構面全景（北東より）　2．第３遺構面東半部（北西より）
図版４　遺構(4)
1．第３遺構面北東部（南東より）　2．ＮＲ－301断面（北西より）
図版５　遺構(5)
1．土器群（南東より）　2．土器群（南西より）
図版６　遺構(6)
1．土器群（北東より）　2．土器群（部分接写）①
図版７　遺構(7)
1．土器群（部分接写）②　2．土器群（部分接写）③
図版８　遺構(8)
1．第４遺構面全景（南東より）　2．第４遺構面全景（北西より）
図版９　遺構(9)
1．ＳＫ－401・402（北西より）　2．ＳＫ－401・402（南東より）
図版10　遺構(10)
1．ＳＫ－401断面（北より）　2．ＳＫ－402断面（北西より）
図版11　遺構(11)
1．ＳＫ－401遺物出土状況①　2．同上（接写）
図版12　遺構(12)
1．ＳＫ－401遺物出土状況②　2．ＳＫ－401遺物出土状況③
図版13　遺構(13)
1．ＳＫ－402遺物出土状況①　2．ＳＫ－402遺物出土状況②
図版14　遺構(14)
1．ＮＲ－401・402・403（北西より）　2．ＮＲ－401・402・403（南東より）
図版15　遺構(15)
1．ＮＲ－401（北東より）　2．ＮＲ－403（南西より）
図版16　遺構(16)
1．ＮＲ－402遺物出土状況①　2．ＮＲ－402遺物出土状況②
図版17　遺構(17)
1．ＮＲ－402遺物出土状況③　2．ＮＲ－402遺物出土状況④
図版18　遺構(18)
1．ＮＲ－402遺物出土状況⑤　2．ＮＲ－402遺物出土状況⑥
図版19　出土遺物(1)［土器］
図版20　出土遺物(2)［土器］
図版21　出土遺物(3)［土器］
図版22　出土遺物(4)［土器］
図版23　出土遺物(5)［土器］

図版24　出土遺物(6)［土器］
図版25　出土遺物(7)［土器］
図版26　出土遺物(8)［土器］
図版27　出土遺物(9)［土器］
図版28　出土遺物(10)［土器］
図版29　出土遺物(11)［土器］
図版30　出土遺物(12)［土器］
図版31　出土遺物(13)［瓦］
図版32　出土遺物(14)［瓦］
図版33　出土遺物(15)［瓦・土製品等］
図版34　出土遺物(16)［石製品］
図版35　出土遺物(17)［石製品］
図版36　出土遺物(18)［石製品］
図版37　出土遺物(19)［石製品］
図版38　出土遺物(20)［金属製品］

第１章　調査に至る経緯

鍋田川遺跡は昭和33年に砂防堰堤工事の際に発見された遺跡である。それに伴う出土遺物に古墳時代の土器、滑石製有孔円板、鹿角製品、卜骨などが出土したことにより古墳時代の祭祀遺跡と考えられてきた。その後、長年にわたり発掘調査の機会には恵まれなかったが、平成元年から平成５年にかけて本格的な調査が実施され、現在では縄文時代から近世に至る複合遺跡との性格が与えられている。

今回の調査は、学校法人大阪産業大学により校舎（15号館）の建設工事の事業計画がなされたことによるものであるが、その計画地は鍋田川遺跡の範囲内であったため、学校法人大阪産業大学より本市教育委員会に当該事業における埋蔵文化財の取り扱いについての事前協議の申し入れがあった。

本市教育委員会では、文化財保護法第57条の２（現、93条）に基づく届出の提出を求めるとともに、工事によって遺跡の損壊が想定される場合には工事の設計変更による現状保存または発掘調査が必要である旨を伝えた。

以上の協議を経て、本市教育委員会が範囲確認調査を実施したところ、遺物を多量に含んだ包含層を確認するなど遺跡の広がりが確認された。その後、遺跡の保存に関して協議を行ったが、事業内容の計画変更は困難であるとのことから発掘調査を実施することで合意した。

調査は計画地511.94㎡を対象に、平成10年８月３日から着手し、同年11月21日に終了した。

四条中学校
大阪桐蔭高校
グラウンド
テニスコート
中垣内三丁目
大阪桐蔭高校
大阪産業大学
平成3、5年
鍋田川遺跡
発掘調査
鍋田川
鍋田川
鍋田川

第２章　遺跡の位置と環境

鍋田川遺跡は大阪府大東市中垣内に所在し、南北約220m、東西約290mの範囲を持つ遺跡である。これまで数次にわたって調査が実施されており、縄文時代から近世にかけての複合遺跡であることが明らかにされている。特に弥生～古墳時代における成果が顕著である。

地理的には、生駒山地より派生する鍋田川の左岸一帯および右岸に形成された低位段丘から扇状地にかけて立地している。

以下、大東市域の遺跡を中心に歴史的推移を概観する。

第２図　大東市位置図

〈旧石器時代〉

中垣内遺跡からナイフ形石器が出土している。しかし、昭和34年の東大阪変電所建設時における出土のため、その詳細は明らかでないが、この時代の遺物としては現在のところ市内唯一のものである。

〈縄文時代〉

集落を示すような具体的な遺構は検出されていないため、様相については明らかではない。唯一、中垣内遺跡で中期後半の土坑状の遺構と推測されるものが確認されているのみである。遺物では、北条遺跡、宮谷古墳群で草創期の有舌尖頭器などが出土・採集している他、自然河川、自然流路、包含層等からの出土ではあるが主に宮谷川、鍋田川周辺の遺跡から中～晩期を中心とした土器の出土が確認されている。

そして、磨耗を受けず比較的残りの良好な土器の出土も多いことから丘陵、扇状地などに集落跡の存在した可能性は十分高いものと考えられる。

〈弥生時代〉

この時代から市域においても遺構を伴う遺跡が多数確認されるようになる。前～中期の集落跡が確認された中垣内遺跡、北条西遺跡、後期の竪穴住居を検出した北条遺跡などがある。また、中垣内遺跡の東に位置する鍋田川遺跡では後期のまとまった遺物が出土しており、当時の集落の動向を考えるうえでも重要な遺跡であることが明らかになりつつある。

〈古墳時代〉

当時、河内湖東岸に位置していた市域においても多数の集落が営まれるようになり、前期では鍋田川遺跡、中～後期にかけては北新町遺跡、メノコ遺跡などがある。特に特徴的な様相としては初期須恵器、韓式系土器、鳥足文を施した陶質土器の出土など渡来系的な影響が強い遺物が目立ち、先に述べた河内湖東岸という地理的状況からも頷けるものである。

古墳に関しても多くの古墳、古墳群が周知されているが、残念ながら詳細の解らないものが多い。その中において城ヶ谷遺跡、北条遺跡、宮谷古墳群、堂山古墳群で古墳の調査が行われている。特に堂山古墳群では三角板皮綴短甲、衝角付冑、鉄刀、鉄鏃など多量の鉄製武器、武具類が出土していることか

ら当時の有力な首長墓と考えられており、当時の社会を考えるうえで貴重な成果をあげている。

〈古代〉

奈良時代では北新町遺跡、寺川遺跡、元粉遺跡で集落跡が確認されている。特に北新町遺跡では人面墨書土器が出土し、また寺川遺跡では「白麻呂」と墨書された土器が出土するなど、官衙的集落の存在が推定されている。

平安時代では寺川遺跡で集落跡が確認されている。特に、直径１ｍ程の木を刳り貫いた井筒などは注目され、また河川跡からはウマの骨が一体復元出来るほどの出土があり、通常の集落とはかなり違う様相を示している。

〈中世〉

北新町遺跡で12～13世紀を中心とした集落跡、御氣遺跡で13～14世紀の集落跡が確認されており、市域における中世の様相も明らかにされてきている。また、城跡に関しても、戦国武将、三好長慶の飯盛城、その支城とされる野崎城、キリシタンで有名な三箇サンチョの三箇城などが知られている。ただ、考古学的には飯盛城において発掘調査がわずかに実施されているのみで残念ながら詳細は明らかにされていない。

〈近世〉

大阪城の築城、また江戸幕府による再築の際、石垣用石材の供給地であった石切場跡や、宝永元年(1704)の大和川付け替えに伴い新田開発が行われるが、その管理・運営施設であった平野屋新田会所などがある。

また西諸福遺跡では深野池、新開池とは別の池と推定されている遺構が検出されており、備前擂鉢、壺、美濃窯系天目茶碗、胎土目唐津窯系皿、堺擂鉢、石臼などの陶磁器類がまとまって出土している。

（引用・参考文献）

大阪府史編集専門委員会　1991年　『大阪府史』別巻　大阪府

大東市教育委員会　1973年　『大東市史』

大東市教育委員会　1987年　『寺川・北条遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第１集

大東市教育委員会　1989年　『大東市埋蔵文化財発掘調査概報』大東市埋蔵文化財調査報告第３集

大東市教育委員会　1990年　『城ヶ谷遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第６集

大東市教育委員会　1997年　『中垣内遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第11集

大東市教育委員会　1997年　『寺川遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第13集

大東市教育委員会　1998年　『メノコ遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第14集

大東市教育委員会　1999年　『御領遺跡』大東市埋蔵文化財調査報告第15集

大東市教育委員会　2000年　『西諸福遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第17集

大東市教育委員会　2002年　『旧平野屋新田会所屋敷と建物』大東市文化財調査報告書

大東市教育委員会　2004年　『元粉遺跡Ⅰ』大東市埋蔵文化財調査報告第19集

大東市教育委員会　2004年　『中垣内遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第20集

大東市北新町遺跡調査会　1986年　『北新町遺跡第１次発掘調査概要報告書』

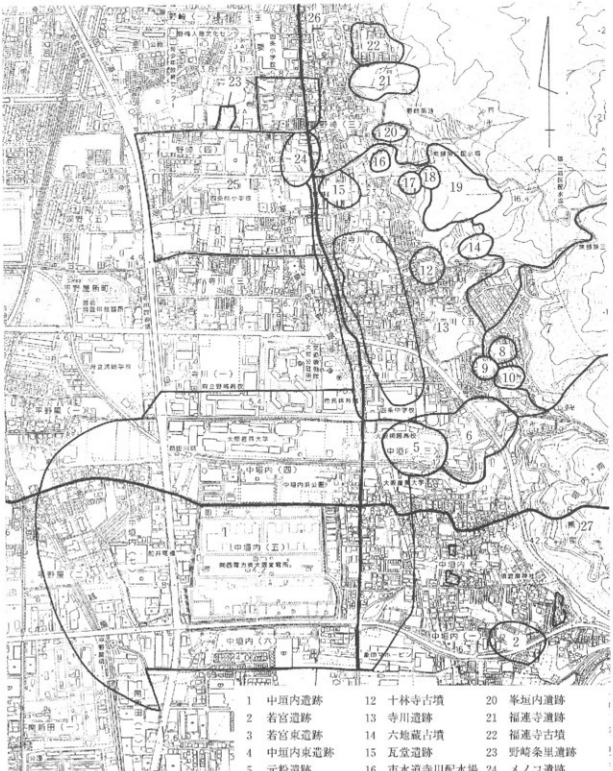
大東市北新町遺跡調査会　1991年　『北新町遺跡第２次発掘調査概要報告書』

大東市北新町遺跡調査会　1997年　『北新町遺跡第３次発掘調査概要報告書』

大阪府教育委員会　1993・1994年　『堂山古墳群』大阪府文化財調査報告書第四五輯

中遠健一　1995年　「大東市・北条西遺跡（93・１次調査）」　『まんだ』第五十六号

黒田淳　1988年　「大東市“宮谷古墳群の調査”」　『まんだ』第三十五号



1 中垣内遺跡
2 若宮遺跡
3 若宮東遺跡
4 中垣内東遺跡
5 元粉遺跡
6 鍋田川遺跡
7 大谷古墳群
8 城の越上の段古墳
9 城の越古墳
10 大谷神社古墳
11 寺川古墳群
12 十林寺古墳
13 寺川遺跡
14 六地蔵古墳
15 瓦堂遺跡
16 市水道寺川配水場古墳
17 堂山下古墳
18 堂山上遺跡
19 堂山古墳群1号墳～堂山古墳群2号墳～8号墳
20 峯垣内遺跡
21 福蓮寺遺跡
22 福蓮寺古墳
23 野崎条里遺跡
24 メノコ遺跡
25 寺川浜遺跡
26 東高野街道
27 古堤街道

第3図　周辺遺跡分布図

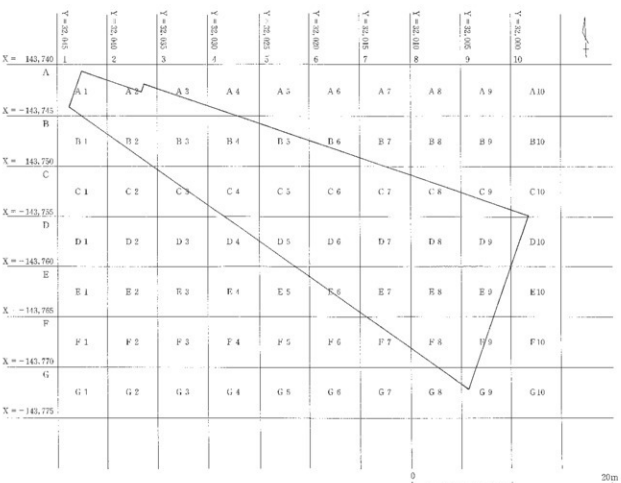
第３章　調査の方法

掘削については、盛土、旧耕作土、床土までを機械掘削の対象とし、以下、包含層については層位ごとに人力による掘削を行った。そして、それぞれの層位面において遺構の確認を行いながら、地山面に至るまで順次繰り返した。

遺構の平面実測については、すべて平板測量で実施した。また必要に応じて遺構平面図・断面図・遺物出土状況図を適宜作成した。

調査区の区割り設定については、調査区付近において調査区をバランスよくカバーできるように考慮しながら任意の地点を決め、それを基点に国土座標第Ⅵ系による座標を使用して調査区全体を東西南北それぞれ５ｍごとに座標軸を順次配しながら囲み、調査区内に５ｍ四方の区画を設定した。各区画の呼称については南北座標軸に西端を起点として算用数字を順次付し、また東西座標軸については北端を起点としてアルファベットを順次付すことにより各交点を記号化し、その北西隅の交点を用いている。また、水準についてはＴ.Ｐ.（東京湾平均海面値）を使用している。先に述べた遺物出土状況など各種記録作業、また包含層などの遺物の取り上げについては、すべてこれらの基準に基づいている。また、報告書の記述においても同様である。

遺構番号については遺構面ごとに付与しており、各遺構面を示す数字を遺構番号の頭に冠している。写真撮影については６×７の中型カメラによるモノクロ撮影、35㎜小型カメラによるモノクロ、カラーそれぞれにおいて撮影を行い、またスライドの作成も行っている。



第４図　調査区区割図

第４章　調査成果

第１節　基本層序

今回の調査では層位的に４面の遺構面を確認した。基本的な層序については以下の通りである。

第０層　機械掘削の対象とした層で盛土、旧耕土、床土である。層厚はそれぞれ約2.0m、0.15m、0.05mを測る。

第Ⅰ層　オリーブ灰色砂質土。調査区西側Ａ１～２区にかけて堆積する層で、西側にかけて落込んでいく。層厚は最大で約0.5mを測る。

第Ⅱ層　褐灰色砂質土～土。調査区西側Ａ１～３区、Ｂ２～３区にかけて堆積する層で、ほぼ西側にかけて厚く堆積する。層厚は0.1～0.5mを測る。

第Ⅲ層　淡灰～淡褐色シルト。調査区北東部Ｄ９区に堆積する。層厚は0.15～0.2mを測る。

第Ⅳ層　青灰色砂質土～土。調査区西側Ｂ３区より西側に堆積し、南西に向けて厚く堆積する。層厚は0.2～0.3mを測る。

第Ⅴ層　灰色微砂。調査区西側に堆積する。層厚は0.1m前後を測る。

第Ⅵ層　褐灰～暗灰褐色砂質土。調査区北東部に堆積し、第１遺構面のベース層になる。層厚は約0.15～0.2mを測る。

第Ⅶ層　暗灰～暗灰褐色土。調査区北東部に堆積し、第２遺構面のベース層になる。層厚は約0.1～0.2mを測る。

第Ⅷ層　灰黄色粗砂～淡灰緑色微砂。調査区東部に堆積する。層厚は約0.05～0.1mを測る。

第Ⅸ層　灰褐色シルト。調査区西側に堆積する。層厚は約0.1m前後を測る。

第Ⅹ層　黄灰色細砂・暗灰緑色シルト混暗灰色砂質土。調査区西側に堆積する。層厚は0.3～0.4mを測る。

第ⅩⅠ層　灰色砂ブロック混暗灰緑色シルト。調査区西側に堆積する。層厚は0.1～0.15mを測る。

第ⅩⅡ層　暗灰色粘質土が主体をなす。調査区西側に堆積する。層厚は0.2～0.3mを測る。

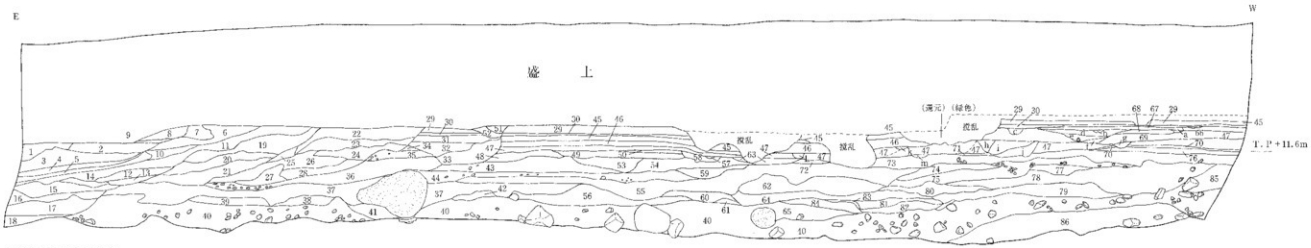
第ⅩⅢ層　黒色粘質土。調査区西側に堆積する。層厚は0.4～0.5mを測る。

第ⅩⅣ層　暗灰色粘土が主体をなす。調査区西側に堆積し、西側に向けて厚く堆積する。層厚は0.1～0.30mを測る。

第ⅩⅤ層　淡灰緑色～にぶい淡黄緑色シルトが主体をなす。調査区北東部に堆積し、第３遺構面のベース層になる。層厚は約0.2～0.3mを測る。

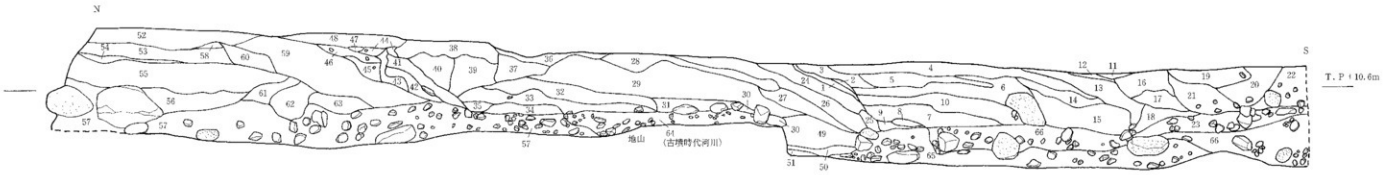
第ⅩⅥ層　灰褐色シルトブロック混白色粗砂が主体をなす。調査区北東部に堆積する。層厚は約0.1～0.2mを測る。

第ⅩⅦ層　明灰緑色粘土が主体をなす。考古学で言う地山層である。



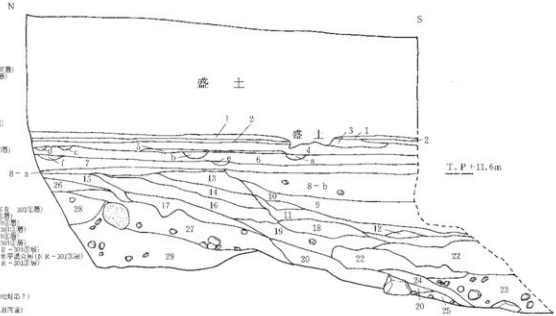
1 灰色砂質土（5 mm内外の礫を含む）
2 にぶい灰色砂
3 灰白色砂～粘砂（含鉄、マンガン沢山）
4 青灰色粘質シルト
5 淡灰色礫混ぬ～シルト
6 にぶい黄灰色シルト
7 暗灰色砂質土
8 にぶい黄色粘質
9 褐色土
10 暗灰色シルト
11 灰白色土（5 mm内外の礫を含む）
12 褐灰色土（ごく微細な砂を含む）
13 緑灰色砂質土
14 灰白色シルト
15 暗緑灰色粘質土
16 灰白色粘砂
17 褐灰色砂
18 灰白色砂
19 にぶい灰褐色砂質土（5 mm内外の礫を含む）
20 灰色砂
21 暗灰緑色粘質土
22 淡灰緑色砂質土（3 mm内外の礫を含む）
23 淡灰褐色砂質土
24 灰白色砂～粘砂
25 緑灰色砂質土
26 灰白色砂質ぢり暗緑灰色シルト
27 灰白色砂
28 灰白色砂（5 cm～10cm大の礫多量）
29 褐砂上
30 黒土
31 灰褐色砂質土
32 褐灰色土（遺構）
33 白色粘砂（遺構）
34 灰褐色土（第2遺構面ベース層）
35 淡灰褐色シルト（粘分を含む、第3遺構面ベース層）
36 白色粘砂（海岸段丘面川）
37 暗緑灰色粘砂（粘分を含む）
38 暗褐色粘砂
39 淡灰黄色粘砂
40 淡黄褐色粘砂
41 淡灰白色粘砂
42 黄褐色砂と白色粘砂（水平連続層）
43 白色砂
44 灰白色粘砂
45 灰褐色土（第目層）
46 暗灰褐色土（粘分を含む）（第1遺構面ベース層）
47 褐灰色土（粘土を含む）（第2遺構面ベース層）
48 白色砂（硬まっている）（第2遺構面ベース層）
49 淡灰緑色シルト（粘分を含む）（第3遺構面ベース層）
50 淡灰黄色粘砂（第3遺構面ベース層）
51 灰褐色砂質土
52 白色砂
53 白色粘砂（遺構）
54 にぶい褐灰色粘砂
55 褐灰色シルト（粘分を含む）
56 白色砂
57 灰褐色砂質ぢり暗灰色粘砂
58 暗灰色土（粘分、マンガンを含む）（遺構）
59 淡黄色粘砂混ぢり淡灰緑色粘砂
60 灰色粘砂
61 白色粘砂
62 白色粘砂（粘分を含む）
63 暗灰褐色土（遺構）
64 淡緑色シルト（粘分を含む）
65 白色砂（粘分を含む）
66 淡灰色粘砂（1 mm内外の礫を含む）
67 淡灰緑色シルト
68 灰褐色土（3 mm内外の礫を含む）（第1遺構面ベース層）
69 灰褐色砂質土（5 mm内外の礫を含む）（第2遺構面ベース層）
70 灰黄色粘砂（第遺構）
71 淡灰緑色粘砂（粘層層）
72 淡灰緑色シルト（粘分を含む）（第3遺構面ベース層）
73 緑灰色シルト（粘分を含む）（第3遺構面ベース層）
74 淡灰緑色粘砂ぢり淡灰緑色粘砂（粘分沈着）（強年以前河川）
75 灰褐色シルトブロックを含む白色粘砂
76 暗灰色土ぢり暗灰色粘質土（K R－301の土層）
77 淡灰黄褐色砂ぢり淡灰緑色シルト（粘分を含む）
78 灰褐色粘質シルト（粘分多多量に含む）
79 褐灰色シルト（粘分、マンガンを含む）
80 黄褐色粘砂と淡灰緑色シルトの互層
81 緑灰色粘砂
82 淡緑色粘砂と褐灰土の互層
83 淡灰色粘土シルト
84 淡灰色粘砂
85 暗褐灰色シルト
86 黄色粘砂（粘分を含む）
a 67と同じ（像－107）
b 67と同じ（像－113）
c 褐灰色シルト（像－134）
d 暗灰褐色土（3 mm内外の礫を含む）（S K－101）
e 灰褐色砂質土（S K－101）
f 暗褐灰色土（5 mm内外の礫を含む）（S K－101）
g 灰白色粘砂（像－203）
h 茶褐色土（S K－202）
i 灰白色砂（S K－202）
j 暗灰褐色土（S K－202）
k 黒灰色砂質土（像－207）
L 白色粘砂（遺構）
m 灰白色粘砂（像－305）
※1～25までは押出砂の河川

第５図　調査区北壁断面図（１）

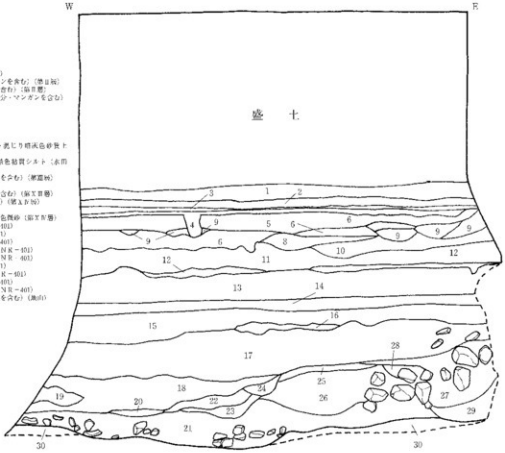


セクション１（西側断面）
1 にぶい灰黄色粘砂（K R－301③層）
2 黄白色粘砂（K R－301③層）
3 淡褐色粘質土（マンガンを含む）（K R－301①層）
4 灰色砂質土（ごく黄色粘砂を含む）（粘分・マンガンを含む）（K R－301①層）
5 濃黄灰色粘砂（粘分・マンガンを含む）（K R－301①層）
6 淡灰緑色粘砂（粘分・マンガンを含む）（K R－301①層）
7 灰白色粘砂（粘ぢりにぶい黄灰色砂（粘分・マンガンを含む、炭化）（K R－301①層）
8 濃灰緑色粘砂（粘分を多量に含む）（K R－301①層）
9 緑灰色粘砂（K R－301①層）
10 にぶい黄灰色粘砂（粘分・マンガンを含む）（K R－301①層）
11 暗褐灰色砂質土（K R－301①層）
12 明褐色砂（K R－301①層）
13 にぶい淡灰黄色粘砂（粘分を若干含む）（K R－301の層）
14 灰黄色粘質ぢり灰オリーブ色粘砂（K R－301の層）
15 灰白色粘砂（K R－301の層）
16 褐黄色砂（黒い粘物が入る）（K R－301の層）
17 暗灰褐色粘砂（K R－301の層）
18 暗褐色砂（黒い粘物が入る）（K R－301の層）
19 オリーブ黒色シルトブロック混ぢり灰色粘質土（粘分を含む）（K R－301の層）
20 淡灰緑色砂質土、褐色粘砂の混合層（K R－301の層）
21 灰緑色粘砂と黄褐色砂との混合層（K R－301の層）
22 暗褐色砂（K R－301の層）
23 黄褐色粘砂と粘砂の混合層（10～30cmの厚さ多量）（K R－30.の層）
24 灰褐色粘質シルト（粘分・マンガンを含む）（K R－301③層）
25 暗緑褐色粘質シルト（K R－301③層）
26 灰色砂質土（5 mm内外の礫を含む）（K R－301③層）
27 黒灰色粘質土（5 mm内外の礫を含む）（K R－301③層）
28 暗緑色砂質土（3 mm内外の礫を含む）（K R－301③層）
29 褐緑灰色シルト混ぢり灰緑灰色砂質土（K R－301③層）
30 暗灰色粘質土（K R－301③層）
31 灰色シルト（K R－301②層）
32 緑灰色シルト（5 mm内外の礫を含む）（K R－301③層）
33 暗灰色粘砂（K R－301②層）
34 灰色粘砂混ぢり灰緑黄色粘砂（K R－301③層）
35 黒灰色粘質土（K R－301③層）
36 灰色粘砂混ぢり暗灰色シルト（K R－301③層）
37 灰緑灰色粘質土（5 mm内外の礫を含む）（K R－301②層）
38 にぶい灰褐色砂質土（5 mm内外の礫を含む）（粘分を含む）（K R－301の層）
39 暗い灰褐色シルト混ぢりにぶい灰褐色砂質土（粘分を含む）（K R－301③層）
40 灰褐色シルト混ぢり灰褐色砂質土（5 mm内外の礫を含む）（粘分を含む）（K R－301③層）
41 淡灰白色粘砂
42 黄色粘砂と白色粘砂（水平連続層）
43 白色砂
44 灰白色粘砂
45 茶褐色シルト（粘層層）
46 暗灰褐色土（粘分を含む）（第1遺構面ベース層）
47 暗灰色土（粘分を含む）（第2遺構面ベース層）
48 白色砂（硬まっている）（第3遺構面ベース層）
49 淡灰緑色シルト（粘分を含む）（第3遺構面ベース層）
50 淡灰褐色砂質土（第3遺構面ベース層）
51 灰褐色砂質土
52 白色砂
53 白色粘砂混ぢり淡灰色粘砂
54 にぶい褐灰色粘砂
55 緑灰色シルト（粘分を含む）
56 白色砂
57 灰褐色砂質土（遺構）
58 暗灰色土（粘分、マンガンを含む）（遺構）
59 淡黄色粘砂混ぢり淡灰緑色粘砂
60 灰色粘砂
61 黄灰色粘質ぢり黄灰色粘砂（弥生以前河川）
62 暗灰色シルト、灰緑色シルト、灰黄色シルトの混合層（弥生以前河川）
63 灰黄色粘砂ブロックを含む白色粘砂（粘分を含む）（弥生以前河川）
64 暗褐黄色粘砂（K R－402）（弥生以前河川）
65 淡灰色粘砂（K R－403）（強年以前河川）
66 暗褐灰色粘砂（弥生以前河川）

第６図　セクション①断面図



第７図　調査区東壁断面図



第８図　調査区北壁断面図（１）

第２節　第１遺構面

今回の調査地は、平成６年に鍋田川が改修工事により流路が変更される以前の旧流域であったためそのほとんどが旧河川の痕跡であったが、調査地北東部において僅かに遺構を確認することができたものである。基本層序第Ⅵ層をベース面として土坑、ピット、鋤溝などを検出した。標高はＴ．Ｐ．＋11.7m前後を測る。

１．土坑

ＳＫ－101

Ｃ９～Ｄ９区にかけて検出した。形態は不定形を呈し、規模は明らかにし得ないが、深さは約0.07mを測る。埋土は１層で灰色砂質土である。遺物は土師器、須恵器などが出土している。

ＳＫ－102

Ｄ９区で検出した。形態は不定形な楕円形を呈し、規模は長径約1.7m、短径約1.0m、深さ約0.07mを測る。埋土は１層で灰黄色シルトである。遺物は土師器が出土している。

ＳＫ－103

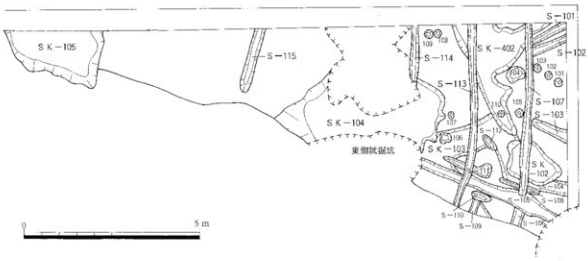
Ｄ９区で検出した。形態は不定形を呈し、規模は明らかにし得ないが、深さは約0.16mを測る。埋土は１層で灰褐色砂質土である。遺物は土師器、須恵器、瓦質土器、陶器などが出土している。

ＳＫ－104

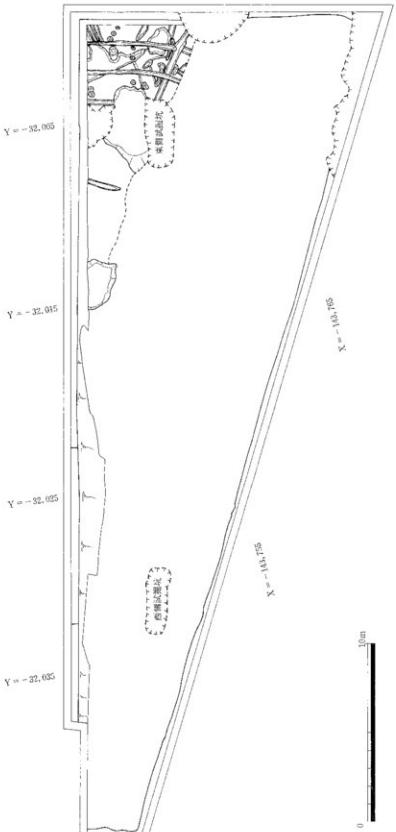
Ｃ８、Ｄ８～９区にかけて検出した。形態は不定形を呈し、規模は明らかにし得ないが、深さは約0.07mを測る。埋土は６層で灰色系のシルト、砂が主体をなす。遺物は土師器、須恵器、瓦器、瓦質土器、陶器、染付磁器、瓦などが出土している。

ＳＫ－105

Ｃ７区で検出した。形態は不定形な楕円形を呈し、規模は長径約2.75m、短径約1.65m、深さ約0.07mを測る。埋土は３層で灰色系のシルト、砂が主体をなす。遺物は土師器、須恵器、陶器、染付磁器、瓦などが出土している。



第９図　第１遺構面遺構配置図



第10図　第１遺構面全体図

2．ピット

10基を検出した。建物を構成できるものは確認し得なかった。形態は概ね円形を呈し、規模は概ね径0.3m前後、深さ0.1～0.2mを測るものが主体をなす。埋土についても1層で灰緑色シルト～砂質土が主体をなす。遺物は土師器などが出土している。

3．鋤溝

15条を検出した。概ね旧河川に平行あるいは垂直に走るものである。規模は概ね幅0.3m前後、深さは0.05m前後を測るものが主体をなす。埋土についても1層で淡灰緑色シルト～砂質土が主体をなす。遺物は土師器、須恵器、瓦質土器、陶器などが出土している。

4．その他

旧河川の川床から桟状の形態を呈する落込みを検出し、一部に石積み、円形の筒状の木樋が確認された。近世以降に比定されるものであるが、ある時期において取水などが行われていたと考えられる。

第３節　第２遺構面

第１遺構面と同様の状況であったため調査地の北東部で僅かに遺構を確認したものであり、基本層序第Ⅶ層をベース面として土坑、落ちこみ状遺構、溝溝を検出した。標高はＴ．Ｐ．＋11.6前後を測る。

１．土坑

ＳＫ－201

Ｄ９区で検出した。形態は不定形で段状を呈するものである。規模は最大長約3.35ｍ、最大幅約2.4ｍ、深さ約0.22ｍを測る。埋土は１層で暗緑灰色砂質土である。遺物は土師器、須恵器、石錘などが出土している。

ＳＫ－202

Ｃ８～９区、Ｄ８～９区にかけて検出した。形態は不定形を呈し、規模は明らかにし得ないが、深さは約0.12ｍを測る。埋土は１層で灰褐色シルトである。遺物は土師器、須恵器、瓦質土器が出土している。

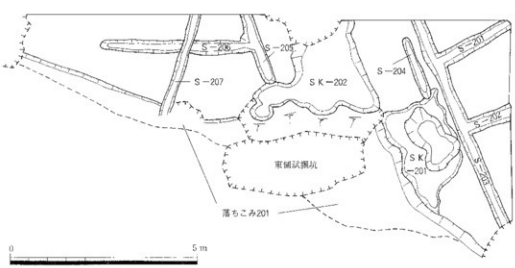
２．落ちこみ状遺構

落ちこみ201

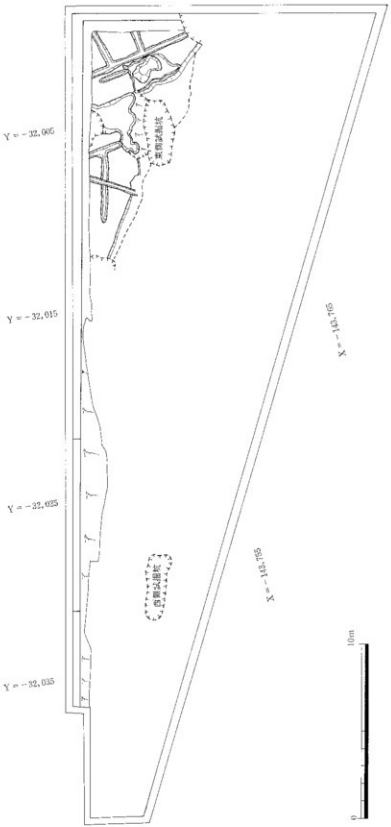
Ｃ７区、Ｄ８～９区、Ｅ９区にかけて検出したもので、南側の旧河川に沿って落込んでいく状況であり、ある時期における河川の肩部の可能性も考えられる。形態・規模は明らかにし得ないが、最大深で0.36ｍを測る。埋土は５層で灰色系の砂、シルトが主体をなす。遺物は弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、陶器などが出土している。

３．溝溝

７条を検出した。概ね東西南北に走るものである。規模は概ね幅0.35ｍ前後、深さは0.1ｍ前後を測るものが主体をなす。埋土はほぼ１層で褐色系の粗砂、シルトが主体をなす。遺物は土師器、須恵器などが出土している。



第11図　第２遺構図遺構配置図



第12図　第２遺構面全体図

第４節　第３遺構面

調査地北東部では第１、２遺構面と同様の状況で僅かに遺構面が残されている状況で、基本層序第ⅩⅤ層をベース面として溝、土坑、ピットを検出し、調査地南側ではほぼ全域にわたって旧河川の時期をさらに遡る自然河川を検出した。また、時期は異なるが自然河川の肩部から川床にかかる部分で土器群も検出している。なお、調査地北東部での遺構面の標高はＴ．Ｐ．＋11.5m前後を測る。

１．溝

ＳＤ－301

Ｃ８～Ｄ８区にかけて検出したほぼ南北方向に走る溝である。規模は幅約0.45m、深さ約0.13mを測る。埋土は１層で暗灰色砂質土である。遺物は土師器、須恵器などが出土している。

ＳＤ－302

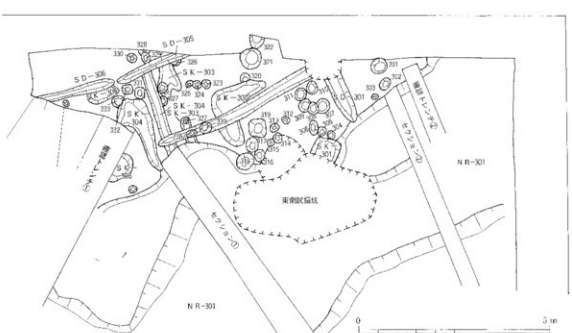
Ｃ８区で検出したほぼ東西方向に走る溝である。規模は幅約0.35m、深さ約0.11mを測る。埋土は３層で黒灰色砂質土、灰黄色シルト、黒灰色粘質土である。遺物は土師器、須恵器、黒色土器などが出土している。

ＳＤ－303

Ｃ８区で検出したほぼ南北方向に走る溝である。規模は幅約0.35m、深さ約0.09mを測る。埋土は１層で暗灰色砂質土である。遺物は出土していない。

ＳＤ－304

Ｃ８区で検出したほぼ南北方向に走る溝である。規模は幅約0.3m、深さ約0.11mを測る。埋土は１層で灰黒色土である。遺物は土師器、須恵器、瓦器などが出土している。



第14図　第３遺構面全体図

ＳＤ－305

Ｃ７～８区にかけて検出したほぼ東西方向に走る溝である。規模は幅約0.25m、深さ約0.05mを測る。埋土は１層で淡灰黄色シルトである。遺物は土師器、瓦器などが出土している。

ＳＤ－306

Ｃ７区で検出したほぼ東西方向に走る溝である。規模は幅約0.3m、深さ約0.09mを測る。埋土は１層で暗灰褐色砂質土である。遺物は土師器、須恵器などが出土している。

2．土坑

ＳＫ－301

Ｄ８区で検出した。形態・規模は試掘坑に切られているため明らかでないが深さは約0.04mを測る。埋土は１層で茶褐色砂質土である。遺物は土師器、瓦器などが出土している。

ＳＫ－302

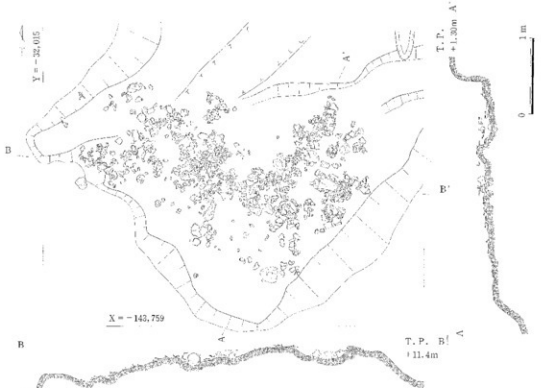
Ｃ８～Ｄ８区にかけて検出した。形態は不定形を呈する。規模は最大長約1.6m、最大幅約1.6m、深さ約0.16mを測る。埋土は２層で灰緑色シルト混黒灰色土、黒灰色土・灰緑色シルト、灰黄色微砂の混合層である。遺物は土師器、須恵器、瓦器、瓦などが出土している。

ＳＫ－303

Ｃ８区で検出した。形態・規模は調査地外に広がるため明らかでないが深さは約0.15mを測る。埋土は１層で灰緑色シルト混黒灰色土である。遺物は土師器、黒色土器Ａ・Ｂ類、瓦器などが出土している。

ＳＫ－304

Ｃ７～Ｄ７区にかけて検出した。形態は不定形を呈する。規模は最大長約2.15m、最大幅約0.9m、



第15図　土器群出土状況図

深さ約0.16mを測る。埋土は1層で暗灰褐色土である。遺物は土師器、須恵器、瓦器、瓦などが出土している。

ＳＫ－305

Ｃ７区で検出した。形態・規模はＳＤ－306に切られているため明らかでないが深さは約0.18mを測る。埋土は1層で暗灰色シルトである。遺物は瓦器などが出土している。

ＳＫ－306

Ｃ７～Ｄ７区にかけて検出した。形態・規模は確認トレンチに切られているため明らかでないが深さは約0.11mを測る。埋土は2層で灰緑色シルト、黄褐色粗砂である。遺物は土師器、須恵器などが出土している。

3．ピット

39基を検出した。建物を構成できるものは確認し得なかった。形態は概ね円形を呈し、規模は径約0.18～0.6m、深さ約0.15～0.6mを測るものが主体をなす。埋土についても1層で灰色系のシルト～土が主体をなす。遺物は土師器、須恵器、瓦器、瓦などが出土している。

4．自然河川

ＮＲ－301

調査地南半部全域において検出した。形態・規模は調査地外に広がるため明らかにし得ないが、深さは最大で約1.5mを測る。埋土は河川跡であるため煩雑であるが総じて灰～褐色系のシルト、砂、粗砂などが主体をなす。遺物についても大量に出土する状況であり、また0.3～0.7m大の花崗岩の転石も見受けられた。この河川についても当然、西流するものであるが、東端と西端の高低差は約1.9mを測るものであった。

5．土器群

Ｄ７区において一辺約3.8mを測るほぼ方形状に突き出たテラス状を呈した部分に集積するものである。弥生時代後期の土器類を中心にまとまって出土するもので、当該期における河川の浅瀬または川岸において何らかの意図的行為の状況を窺わせるものである。

第５節　第４遺構面

基本層序をすべて除去した状況で、土坑、自然河川を検出したものである。

1．土坑

ＳＫ－401

Ｂ４～Ｃ４区にかけて検出した。平面的には後述するＳＫ－402と繋がる状況であるため溝状の様相を呈するが断面形態を考慮しここでは土坑と捉えた。形態は不定形を呈し、最大長約6.1m、最大幅約3.8m、深さ約1.3mを測る。埋土は12層で、緑灰色系のシルト、灰色系の砂、粘質シルトが主体をなす。遺物は弥生土器、土師器、土製品、サヌカイトなどが出土している。

ＳＫ－402

Ａ３～４区、Ｂ３～４区にかけて検出した。ＳＫ－401と同様に平面的には溝状の様相を呈するが断面形態を考慮し同じく土坑と捉えた。形態は調査地外に広がるため明らかにし得ないが、最大長約4.8m、最大幅約3.0m、深さ約1.1mを測る。埋土は11層で、灰色系の粘質シルトが主体をなす。遺物は土師器、石製品などが出土している。

2．自然河川

ＮＲ－401

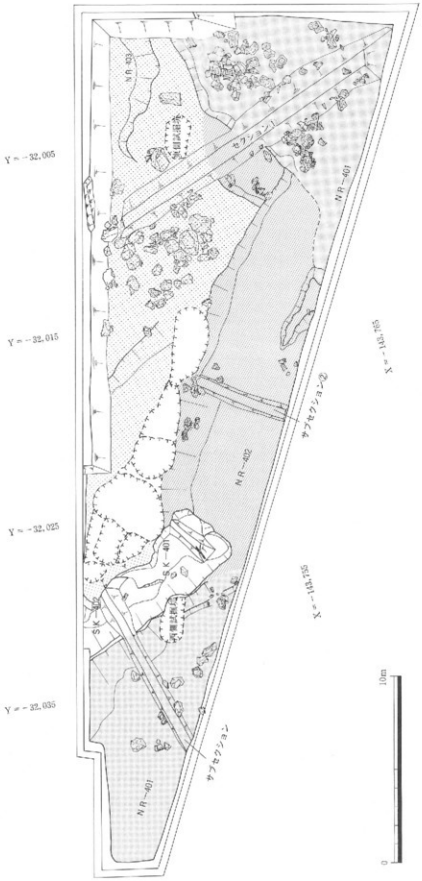
調査地の南東部および西部において検出した。形態・規模については調査地外に広がるため明らかにし得ないが、深さは最大で約1.37mを測る。埋土は河川跡であるため煩雑であるが総じて灰～黄色系のシルト、砂、粗砂などが主体をなす。遺物についても多量に出土する状況で土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、緑釉陶器、輸入陶磁器、瓦、石製品、金属製品などが出土している。また約0.3～0.5m大の花崗岩の転石も見受けられた。この河川についても当然、西流するものであるが、東端と西端の高低差は約1.1mを測るものであった。

ＮＲ－402

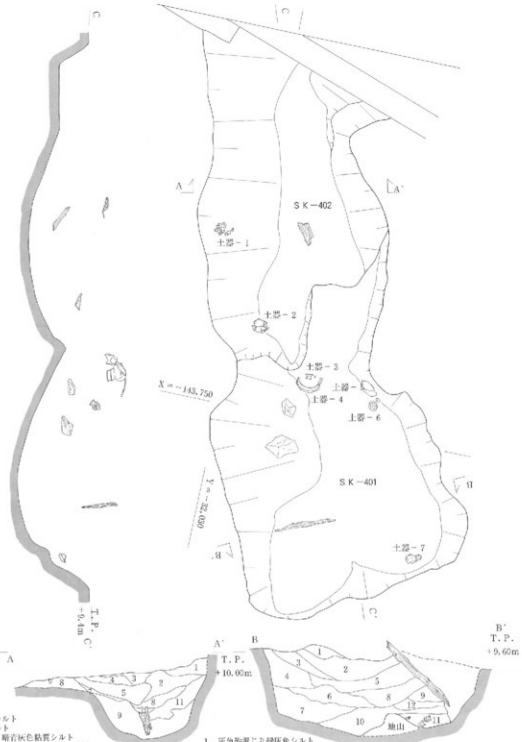
調査地の南側中央部において検出した。ＮＲ－401に切られる。形態・規模については調査地外に広がるため明らかにし得ないが、深さは最大で約0.39mを測る。埋土は河川跡であるため煩雑であるが総じて灰白～灰黄色系の砂、粗砂などが主体をなす。遺物についても多量に出土する状況で弥生土器、土師器、須恵器、製塩土器、石製品などが出土している。この河川についても当然、西流するものであるが、東端と西端の高低差は約0.58mを測るものであった。

ＮＲ－403

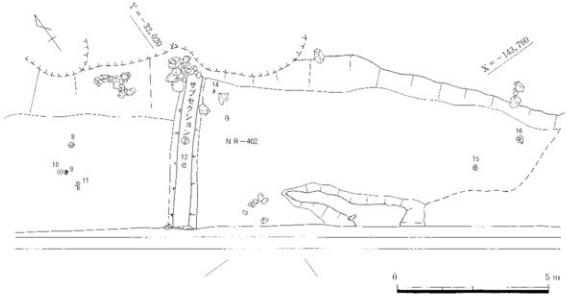
調査地の北東部において検出した。ＮＲ－402に切られる。形態・規模については調査地外に広がるため明らかにし得ないが、深さは最大で約1.26mを測る。埋土は河川跡であるため煩雑であるが総じて灰～褐色系の砂、粗砂などが主体をなす。遺物についてはＮＲ－401・402に比較すると格段に少なくなるが、縄文土器、弥生土器、サヌカイトなどが出土している。また最大で約1.2m大の花崗岩の転石も多く見受けられた。この河川についても当然、西流するものであるが、東端と西端の高低差は約0.41mを測るものであった。



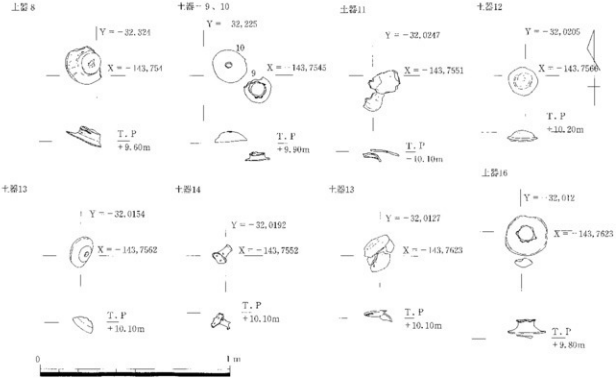
第16図　第４遺構面全体図



第17図　ＳＫ－401、402平・断・遺物出土状況図



第18図　ＮＲ－402遺物出土状況図



第19図　ＮＲ－402各土器出土状況図

第５章　まとめ

今回の調査では４面の遺構面を確認し、それぞれにおいて遺構の検出、および多彩な遺物が出土し、鍋田川遺跡の様相を把握するうえで貴重な成果をあげることができた。以下、各遺構面の成果について概括することでまとめとしたい。

［第１遺構面］

第１遺構面においては調査区のほとんどが河川改修される以前の旧河川であったため、その北東部においてわずかに確認されたもので、鋤溝を主体とするものであった。時期的には近世以降であり、当時の河川との関係性は明らかにし得ないが、周辺の調査成果と同様に耕作地であったことが窺われる。

［第２遺構面］

検出状況としては第１遺構面とほぼ同様の状況を示すもので、鋤溝を主体とするものであった。時期的には中～近世にかけて比定されるものである。これまでの鍋田川遺跡での既往の調査、また隣接する中垣内遺跡や元粉遺跡などの調査成果においてもほぼ同様の状況を示すことから、その様相について再認識させるものであった。

［第３遺構面］

この遺構面では中世の時期に比定される自然河川や、中世の集落跡の存在を想定させるピット群などが検出された。集落跡を想定させる成果としては、北に隣接する平成５年度実施の大阪府教育委員会の調査において若干の成果が窺えるものの、その北側に隣接する平成元年度実施の大東市教育委員会の調査（ＮＢＴ89－１）や、北側約120mに位置する平成４年度実施の調査（ＮＢＴ92－１）においてはその痕跡をほとんど認めることが出来なかったため、集落という性格で捉えるには難があるように思える。今回の集落的状況を呈する様相については河川周辺において何らかの人為的営みが行われた積み重ねの結果であると捉えておきたい。

また、この面では弥生時代後期の土器群がテラス状を呈した場所に集積する状況であったが、何らかの祭祀的行為を示唆するものと思われる。今後の類例の増加に期待し今後の検討課題としたい。

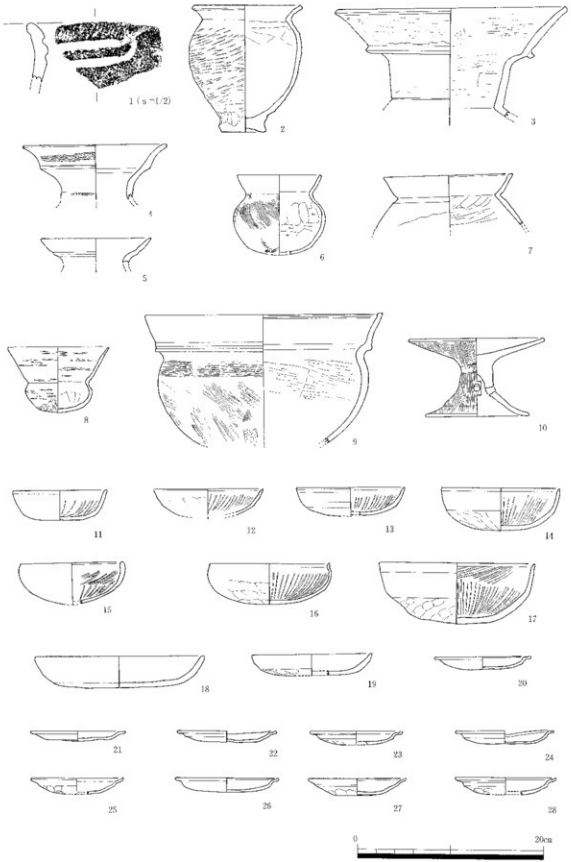
［第４遺構面］

この遺構面では調査区全域において自然河川跡を検出する状況であったが、切りあい関係が比較的明瞭であったため、３時期の河川跡を確認することができた。時期的にはＮＲ－401が奈良～平安時代、ＮＲ－402が概ね古墳時代、ＮＲ－403が弥生時代以前に比定できるもので、この状況は時期により河川の流路が大きく変遷していたことを明確にするものである。また、古墳時代前期に比定される土坑が検出されているが、性格については明らかにし難く、現在のところ井戸的な性格の可能性を想定しておきたい。

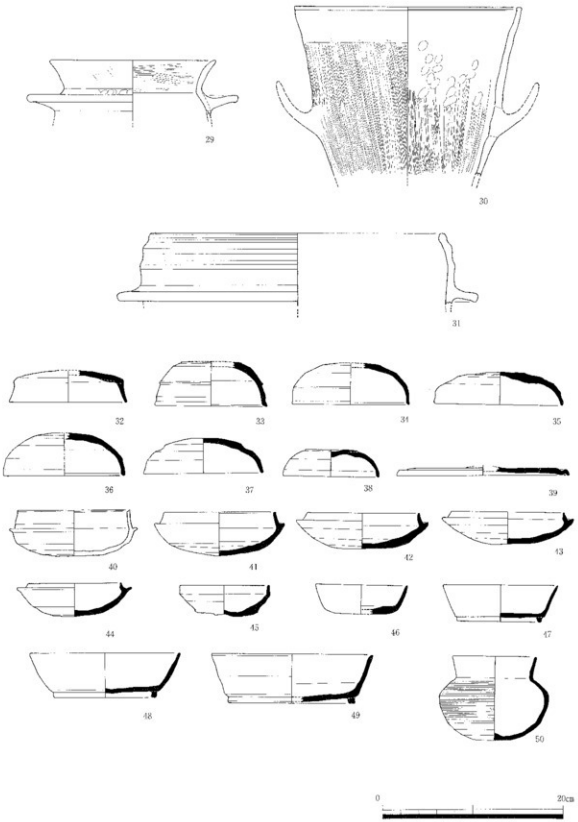
遺物で特筆すべきものとしてはＮＲ－401から鈴帯（巡方）と銙子を思わせる金属製品が出土しており、周辺において通常の集落跡ではなく官衙等の存在を想定させるものである。北側に隣接する寺川遺跡では「白麻呂」銘の墨書土器が出土しており、今回の出土はその可能性をさらに高めるものと思われる。

以上、今回の調査では自然河川の変遷を成果の中心とするものであったが、各時代の多彩な遺物の出土から鍋田川周辺地域では人々の営みが綿々と行われてきたことを明らかにするものであった。それが川と密接な関係があったことは言うまでもないであろう。

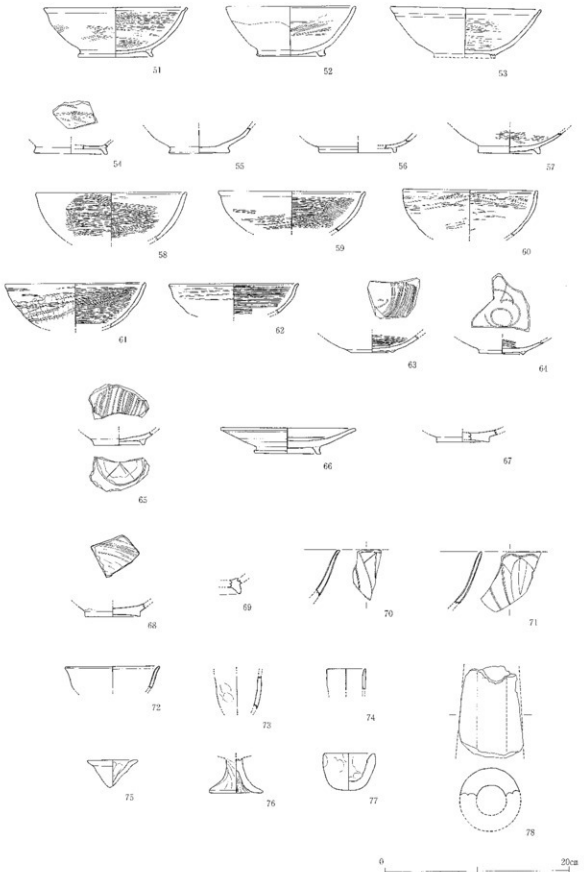
出土遺物実測図・一覧表



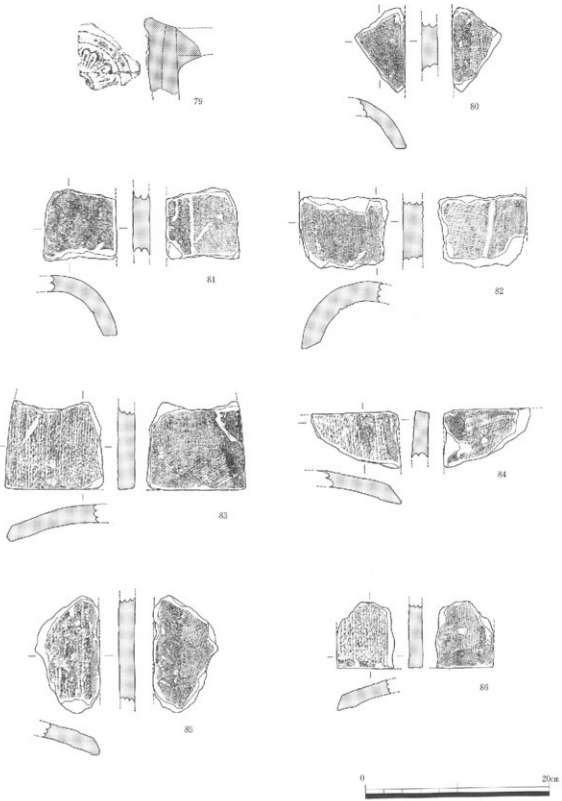
第20図　ＮＲ-301出土遺物（１）



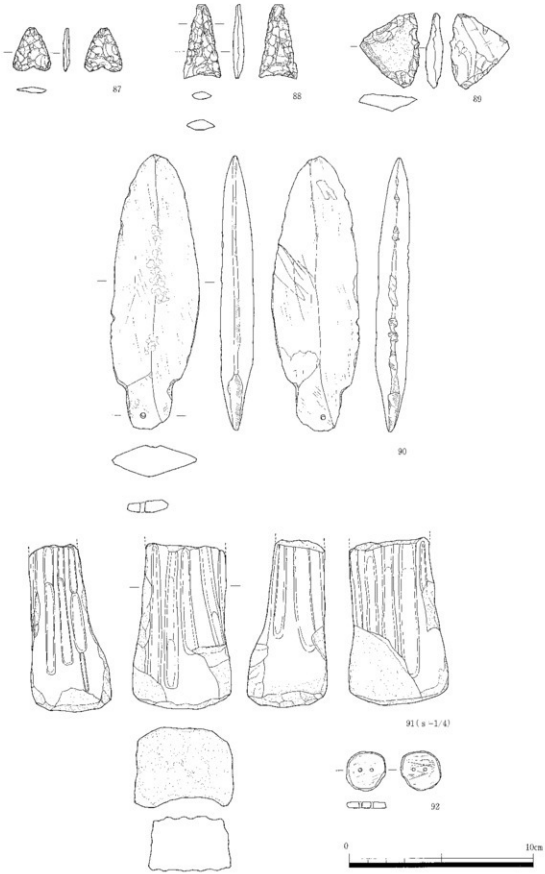
第21図　ＮＲ-301出土遺物（２）



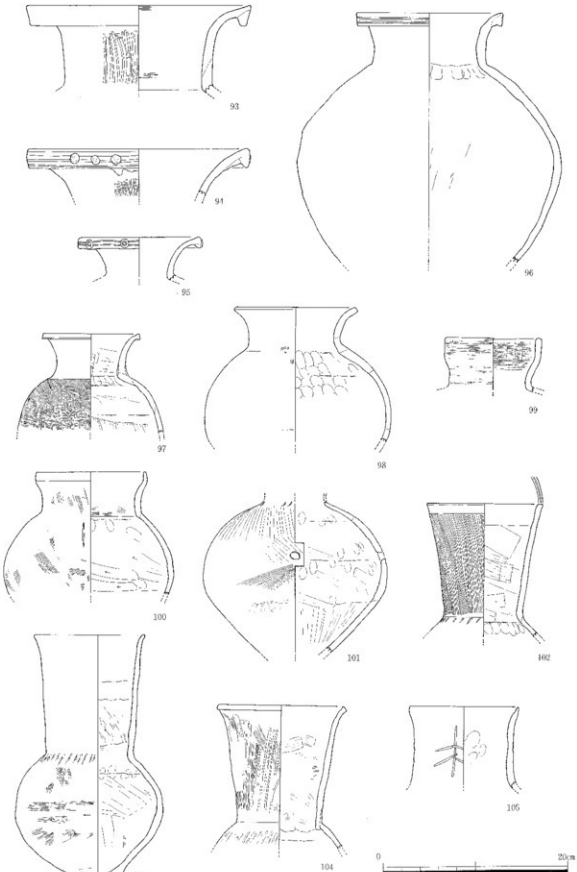
第22図　ＮＲ-301出土遺物（３）



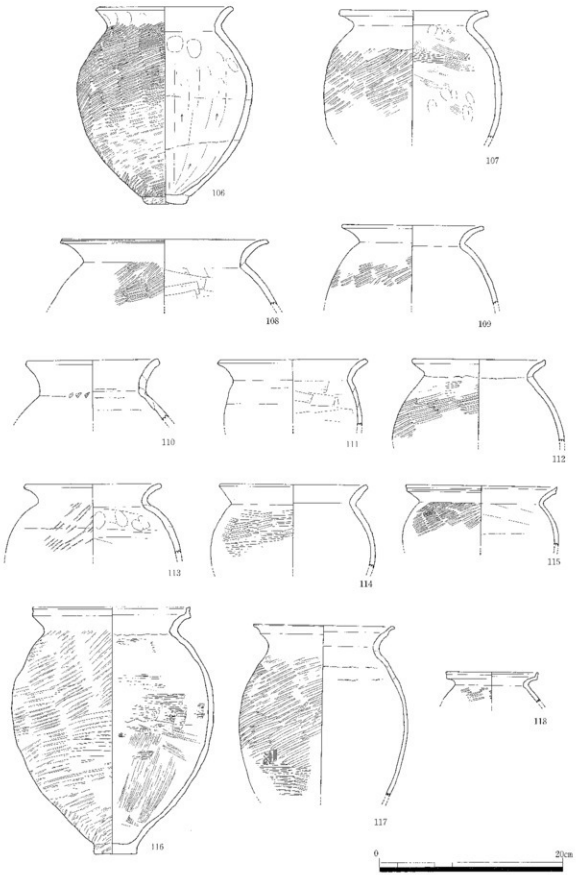
第23図　ＮＲ-301出土遺物（４）



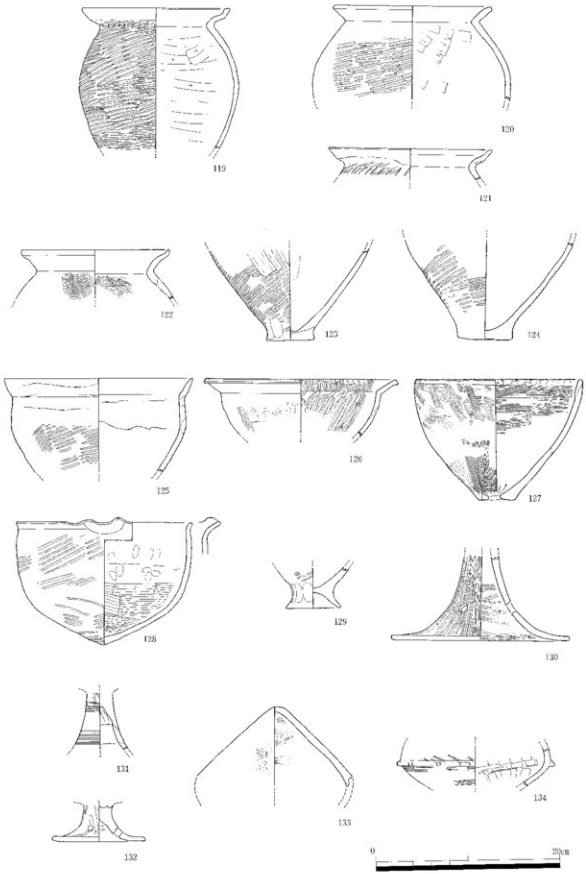
第24図　ＮＲ-301出土遺物（５）



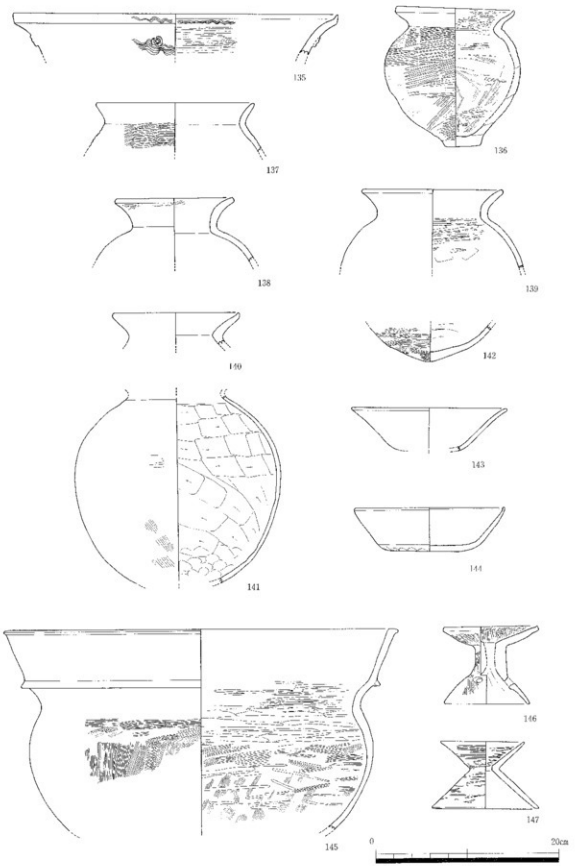
第25図　土器群出土遺物（１）



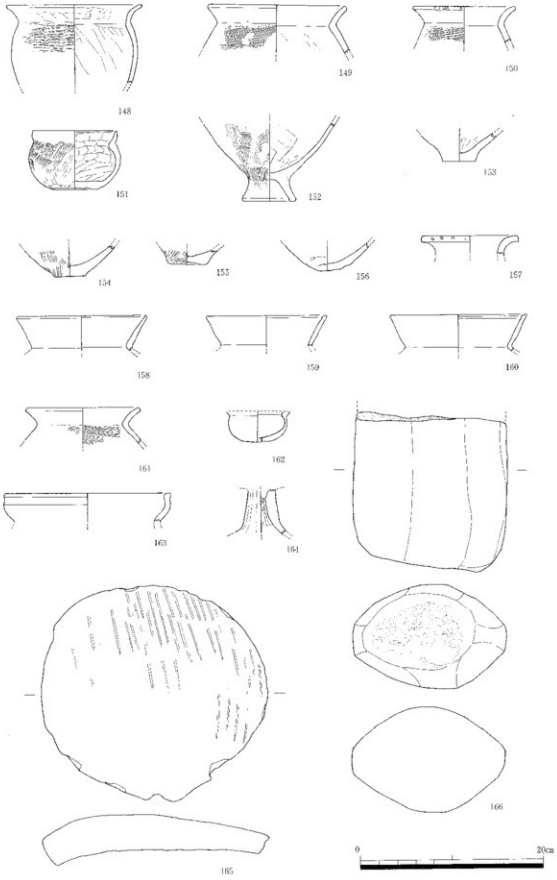
第26図　土器群出土遺物（２）



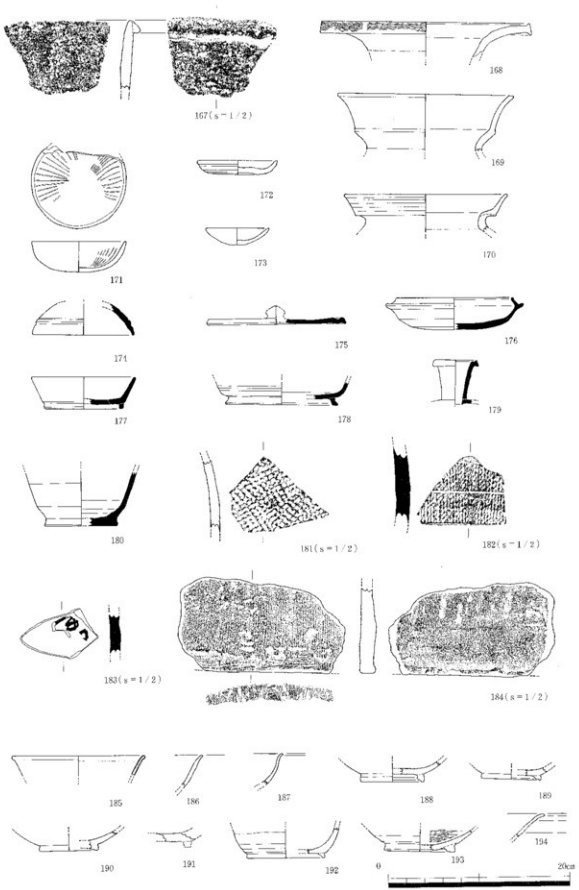
第27図　土器群出土遺物（３）



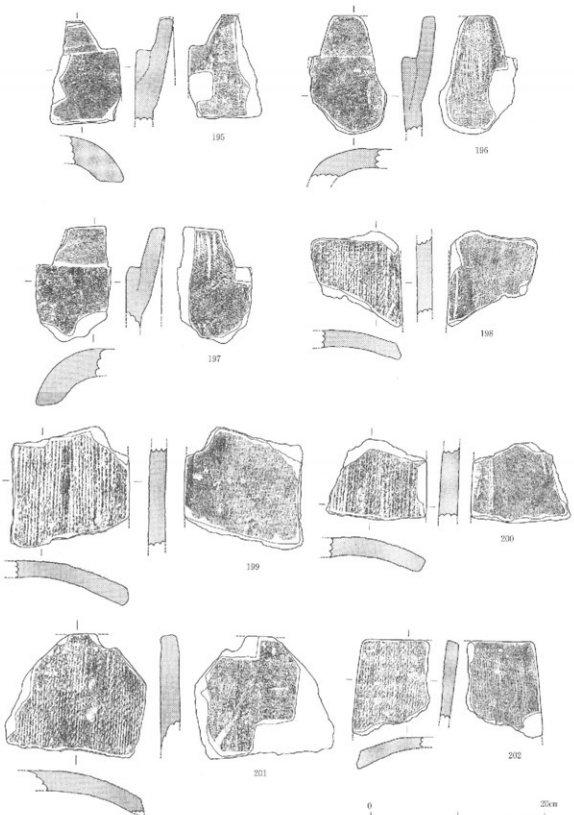
第28図　ＳＫ－401出土遺物



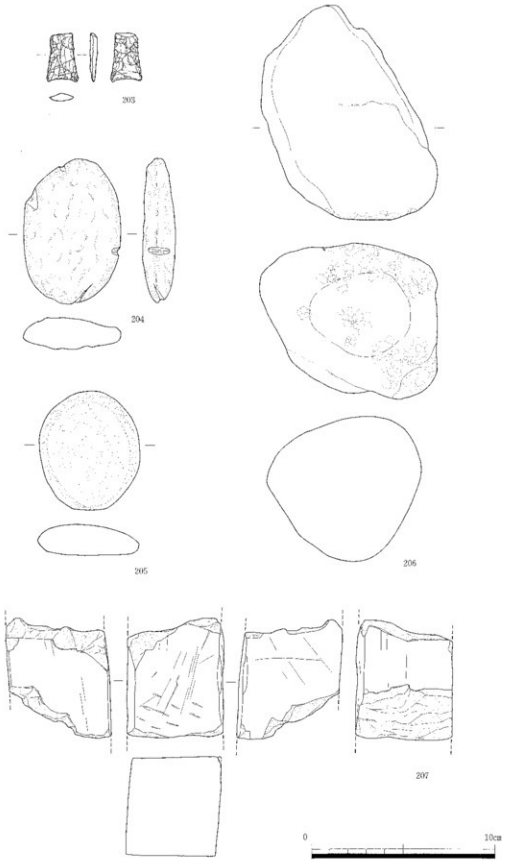
第29図　ＳＫ－402出土遺物



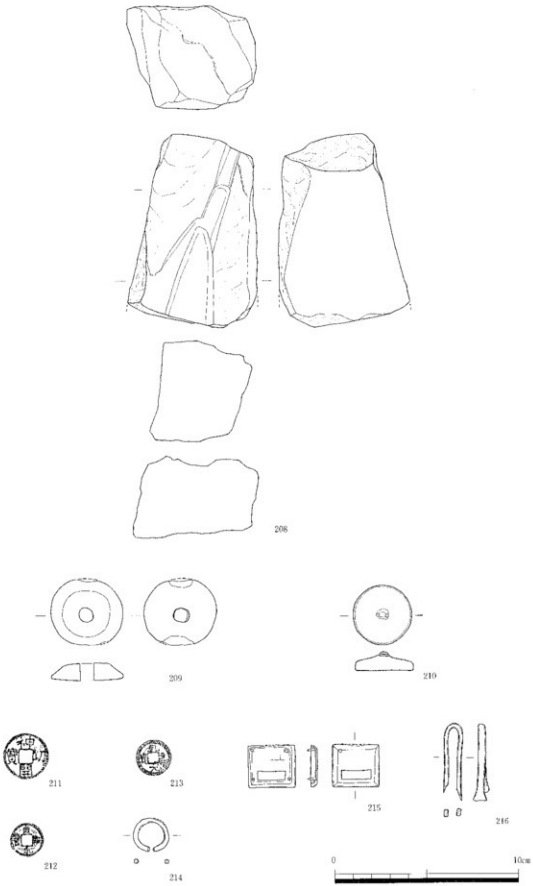
第30図　ＮＲ-401出土遺物（１）



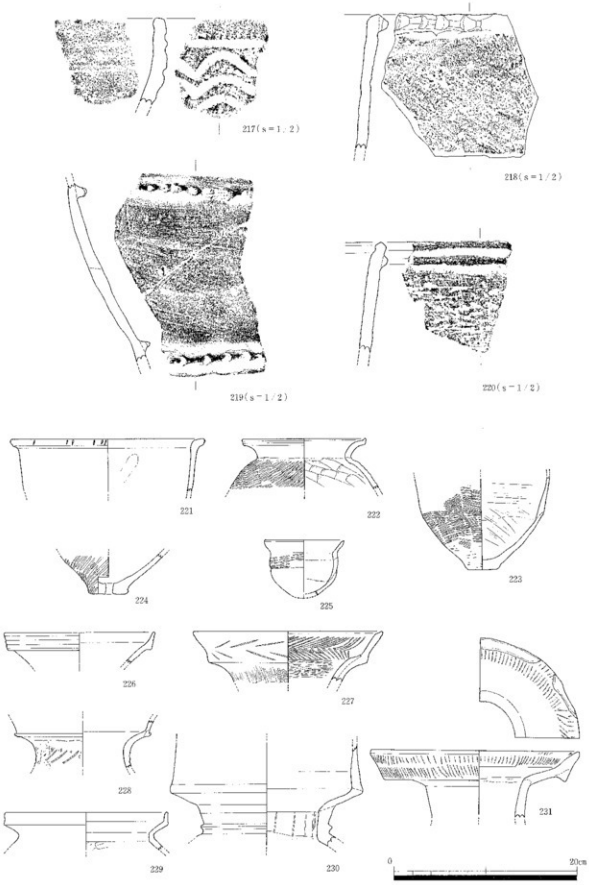
第31図　ＮＲ-401出土遺物（２）



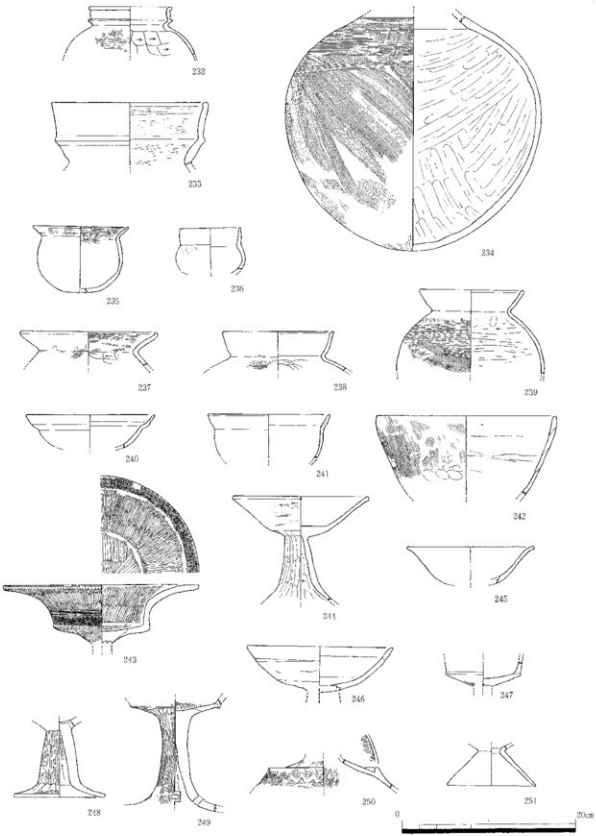
第32図　ＮＲ-401出土遺物（３）



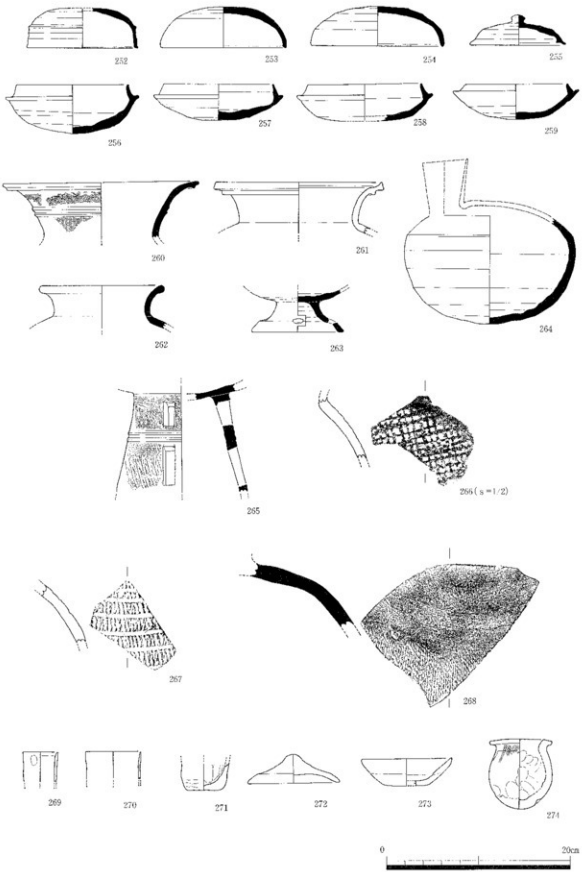
第33図　ＮＲ 401出土遺物（４）



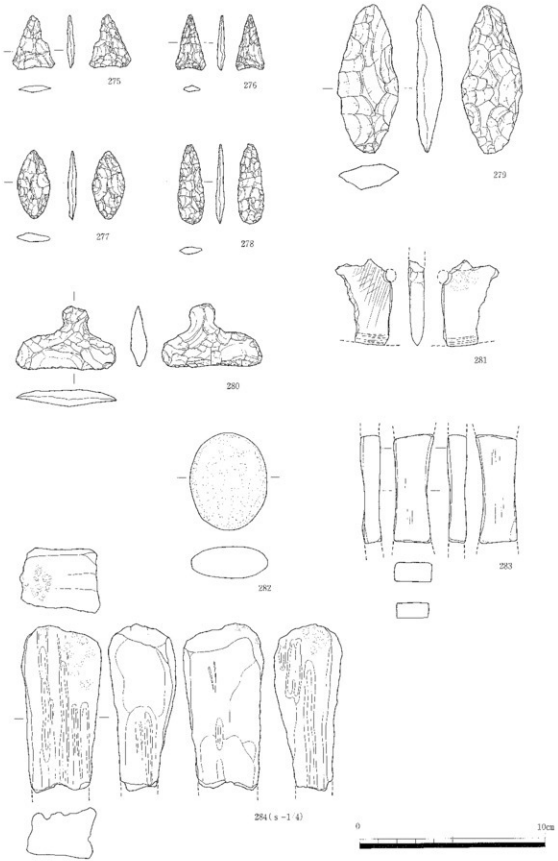
第34図　ＮＲ-402出土遺物（１）



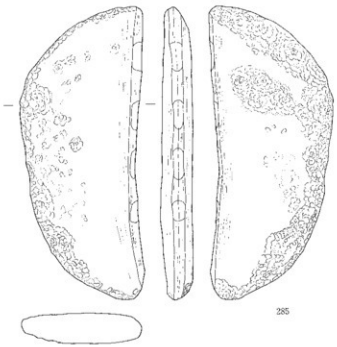
第35図　ＮＲ-402出土遺物（２）

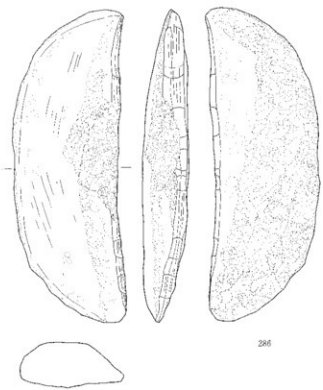


第36図　ＮＲ-402出土遺物（３）

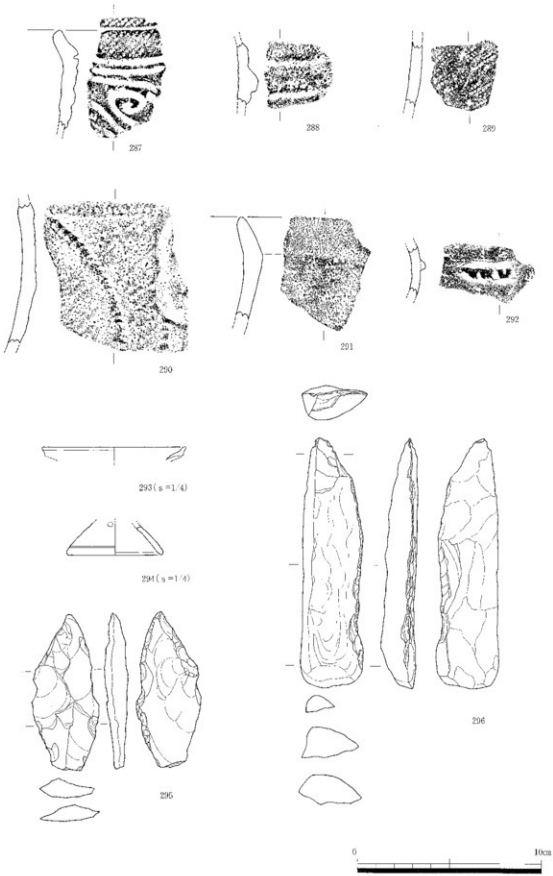


第37図　ＮＲ-402出土遺物（４）

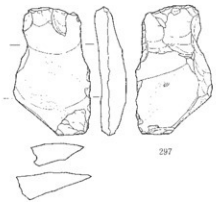


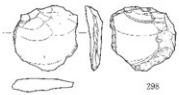


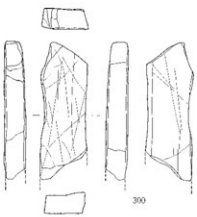
第38図　ＮＲ-402出土遺物（５）



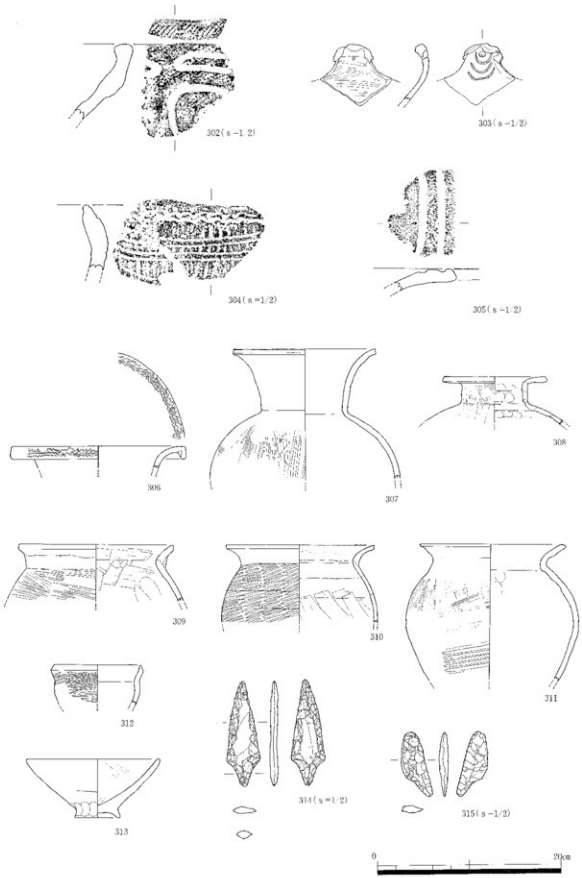
第39図　ＮＲ-403出土遺物（１）







第40図　ＮＲ-403出土遺物（２）



第41図　第ⅩⅥ層出土遺物

出土遺物一覧表

挿図番号	器種	出土地点	法量 (cm)	色調	焼成	胎土	技法の特徴	備考
1	縄文土器 浅鉢	NR－301	器高(残) 3.2	外)黄褐 内)にぶい黄橙 断)にぶい黄橙	良好	やや粗	外面ナデと沈線文 内面ナデ	
2	弥生土器 甕	NR－301	口径(復)11.5 底径4.6 器高13.7	外)淡茶～茶褐～明褐 内)にぶい黄 断)黄灰	やや不良	密	外面:底部ヨコナデ、胴部ナデ(ヨコナデ痕、縦刷毛ナデ) 内面:底部ヨコナデ、胴部の頸のヘラケズリ後ヨコナデ、肩部ナデ、胴部ナデ	外面休部全体に火を受けている
3	弥生土器 甕	NR－301	口径24.4 器高(残)12.0	外)灰黄褐 内)にぶい黄褐 断)褐灰	良好	密	外面ヨコナデ、頸部のハケナデの痕跡、ヨコナデ 内面ヨコナデ、斜め及び縦位のハケナデの痕跡、ヨコナデ、内外面に粘土接合	
4	土師器 甕	NR－301	口径16.8 器高(残)6.5	外)灰黄 内)灰黄 断)黄灰	良好	密	外面ナデ、工具による痕跡、工具による凹線 内面ナデ	
5	土師器 甕	NR－301	口径(復)11.9 器高(残)2.8	外)明赤褐 内)橙 断)橙	良好	密	外面ヨコナデ 内面煤減により不明	
6	土師器 小型丸底壺	NR－301	口径(復)9.1 器高(残)8.6	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)明黄褐	良好	密	外面ハケ目(天上かり方向平位10本/2.6cm) 内面ケズリ(体部から底部にかけて)、 底部に指頭圧痕、口縁部内外面ヨコナデ	
7	土師器 甕	NR－301	口径(復)15.0 器高(残)6.0	外)にぶい黄 内)にぶい黄 断)褐	良好	密	外面横方向のナデ、ナデ 内面横方向のナデ、ケズリ	外面煤付着
8	土師器 小型丸底壺	NR－301	口径10.9 器高7.0	外)にぶい橙 内)にぶい橙 断)橙	良好	密	外面ヨコナデ、ナデ(部分的にヘラミガキ)、横ナデ 内面ヨコナデ、ナデ(部分的にヘラミガキ)、横ナデ	
9	土師器 鉢	NR－301	口径(復)25.6 器高(残)14.0	外) 内) 断)			口縁部直部内外面ヨコナデ、ナデ、外面口縁部下部に沈線あり 内面体部ヘラケズリ、ナデ	
10	土師器 台	NR－301	口径(復)15.7 底径(復)12.1 器高8.95	外)にぶい黄橙 内)にぶい橙 断)灰白	良好	密	外面指オサエ、ヨコナデ、ミガキ 内面ヨコナデ、ナデ、ミガキ	穿孔3ヶ所あり
11	土師器 杯	NR－301	口径10.1 器高3.2	外)にぶい橙 内)にぶい橙 断)にぶい赤褐	良好	密	内外面ナデ、ヨコナデ 内面に暗文とナデ上げが見られる	内外面ともに黒斑あり
12	土師器 杯	NR－301	口径(復)12.6 器高(残)3.1	外)にぶい橙 内)にぶい橙 断)にぶい黄橙	良好	密	外面ヨコナデ、指オサエ後ナデ 内面ナデ後圧数射状暗文	
13	土師器 杯	NR－301	口径(復)12.5 器高(残)3.2	外)にぶい橙 内)にぶい橙 断)にぶい橙	良好	密	外面ヨコナデ、ナデ 内面ヨコナデ、暗文	
14	土師器 杯	NR－301	口径(復)12.8 器高4.55	外)橙 内)橙 断)淡黄橙	良好	密	外面口縁部付近ヨコナデ、体部下半ナデ 内面正放射状暗文	
15	土師器 杯	NR－301	口径12.0 底径(復)12.4静 高(残)4.2	外)橙 内)橙 断)淡赤橙	良好	密	外面ヨコナデ、ナデ、暗文のため不明瞭 内面ヨコナデ、暗文	
16	土師器 杯	NR－301	口径(復)13.8 器高4.8	外)橙 内)橙 断)橙灰	良好	やや粗	外面ヨコナデ、ケズリ後ナデ 内面転ナデ後正放射状暗文	
17	土師器 杯	NR－301	口径16.8 器高6.6	外)橙 内)にぶい橙 断)にぶい橙	良好	密	外面ナデ、雲状圧痕 内面ナデ、暗文	
18	土師器 皿	NR－301	口径(復)19.4 器高(残)3.7	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)にぶい黄橙	やや軟	粗	外面ヨコナデ、指オサエ 内面ヨコナデ	
19	土師器 皿	NR－301	口径(復)12.8 器高(残)2.3	外)橙灰 内)橙灰 断)橙灰	良好	密	外面ヨコナデ、指オサエ 内面ヨコナデ	
20	土師器重	NR－301	口径10.4 器高1.4	外)黄灰 内)黄灰 断)灰白	良好	密	内外面ナデ	内面に温青痕るが解読不明
21	土師器重	NR－301	口径(復)10.2 器高(残)1.05	外)にぶい橙 内)にぶい橙 断)	良好	密	外面ヨコナデ、指オサエ 内面ヨコナデ、ナデ	
22	土師器重	NR－301	口径10.5 底径7.0 器高1.25	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)灰白	良好	密	内外面ヨコナデ、ナデ	
23	土師器重	NR－301	口径(復)10.0 器高(残)1.45	外)にぶい黄橙 内)浅黄橙 断)浅黄橙	良好	密	外面ヨコナデ、指オサエ 内面ヨコナデ	
24	土師器皿	NR－301	口径10.4 底径5.8 器高1.4	外)灰白 内)灰白 断)灰白	良好	密	内外面ヨコナデ、指オサエの後ナデ	
25	土師器皿	NR－301	口径(復)9.9 器高(残)1.7	外)灰白 内)灰白 断)灰白	良好	密	口縁部内外面ヨコナデ 外面指オサエ、ナデ、粘土撫ぎ目あり 内面ナデ	
26	土師器皿	NR－301	口径(復)11.0 器高1.55	外)灰白 内)灰白 断)	良好	密	外面ヨコナデ、指オサエ、ナデ 内面不明	
27	土師器皿	NR－301	口径(復)10.6 器高(残)1.3	外)浅黄橙 内)浅黄橙 断)	良好	密	外面ヨコナデ、指オサエ後ナデ 内面ヨコナデ、ハケ後ナデ	
28	土師器皿	NR－301	口径(復)10.8 器高(残)1.3	外)灰白 内)灰白 断)灰白	良好	密	外面ヨコナデ、指オサエ 内面ヨコナデ	
29	土師器 羽釜	NR－301	口径(復)19.8 最大径(復)26.0 器高(残)6.9	外)橙 内)橙 断)橙灰	良好	密	外面ハケ後ヨコナデ、指オサエ 内面ハケ、ナデ	
30	土師器鍋	NR－301	口径(復)25.0 器高(残)18.3	外)にぶい黄橙 内)にぶい橙 断)橙	良好	密	外面ハケ、口縁部ヨコナデ、把手貼り付けナデ 内面:口縁部ヨコナデ、体部上部ナデと指オサエ、体部下半部ハケ	外面一部に煤付着、内面底部下半部のハケ目ケズリの後に施されていて一部指オサエにより消される
31	土師器羽釜	NR－301	口径(復)32.8 最大径39.8 器高(残)7.95	外)浅黄橙 内)浅黄橙 断)橙	良好	やや粗	外面ヨコナデ、ナデ 内面ナデ	
32	須恵器蓋	NR－301	口径(復)13.0 器高(残)5.0	外)灰 内)灰 断)灰	堅緻	密	外面回転ケズリ、回転ナデ 内面回転ナデ	
33	須恵器蓋	NR－301	口径(復)12.3 器高4.85	外)灰 内)灰 断)灰	堅緻	密	外面回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面回転ナデ	

図版番号	器種	出土地点	法量 (cm)	色調	構成	胎土	技法の特徴	備考
34	須恵器壺	N区-301	口径(復)14.0 器高(残) 4.85	外)灰 内)灰 断)灰	堅緻	密	外面回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面回転ナデ	
35	須恵器杯蓋	N区-301	口径(復)14.2 器高3.6	外)灰白 内)灰白 断)灰白	堅緻	密	外面回転ヘラケズリ、ナデ、ヨコナデ 内面ナデ、ヨコナデ、内面に沿海波文	
36	須恵器蓋	N区-301	口径(復)14.5 器高(残) 3.65	外)青灰 内)暗青灰 断)暗灰	堅緻	密	外面回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面回転ナデ、ナデ	
37	須恵器杯蓋	N区-301	口径(復)13.2 器高3.9	外)灰 内)灰白 断)灰	堅緻	密	外面回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面回転ナデ、ナデ	
38	須恵器杯蓋	N区-301	口径(復)10.6 器高3.0	外)灰 内)灰 断)灰	堅緻	密	外面回転ナデ、天井部に粘土の貼り付け 内面回転ナデ	
39	須恵器蓋	N区-301	口径(復)19.1 器高(残)0.95	外)灰 内)灰(青っぽい) 断)灰	堅緻	密	外面回転ナデ、ヨコナデ 内面回転ナデ、ナデ	
40	須恵器杯	N区-301	口径12.4 全高径14.2 器高5.1	外)灰白 内)に赤い橙 断)赤橙(黄橙)灰白	やや軟	やや粗	外面ヨコナデ、回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面ヨコナデ、回転ナデ	
41	須恵器杯	N区-301	口径(復)12.4 最大径(復)14.8器高4.85	外)灰白 内)灰白 断)	やや不良	やや粗	外面回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面回転ナデ	
42	須恵器杯	N区-301	口径12.4 最大径14.6器 高4.0	外)灰 内)灰 断)	堅緻	密	外面回転ヘラケズリ、回転ナデ 内面回転ナデ、ナデ	
43	須恵器杯	N区-301	口径12.4 最大径14.6器 高3.6	外)灰 内)灰 断)	堅緻	密	外面回転ヘラケズリ、回転ナデ 内面回転ナデ	
44	須恵器杯	N区-301	口径(復)10.2 器高3.7	外)灰 内)灰 断)灰	堅緻	密	外面回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面ナデ、回転ナデ	
45	須恵器杯身	N区-301	口径9.8 器高3.3	外)灰 内)灰 断)灰	堅緻	密	内外面ヨコナデ、ナデ	外面底部は底整調整がなされていない、土を盛った状態のまま
46	須恵器杯	N区-301	口径(復)10.1 器高3.25	外)灰 内)灰(青っぽい) 断)灰(青っぽい)	堅緻	密	外面回転ナデ、板圧痕 内面回転ナデ、ナデ	
47	須恵器杯	N区-301	口径12.7 器高4.1	外)灰 内)灰 断)灰	堅緻	密	内外面ヨコナデ、ナデ、内面に粘土補強痕	高台部何ヶ所かに平縄れが見られる
48	須恵器杯	N区-301	口径(復)16.4 底径(復)11.0 器高4.95	外)灰 内)灰 断)灰黒	堅緻	密	外面回転ナデ、高台貼り付けのナデ、回転ヘラケズリ 内面ナデ、回転ナデ	一部外面に降灰あり
49	須恵器杯身	N区-301	口径(復)17.8 器高(残)5.4	外)灰 内)灰 断)灰	堅緻	密	外面回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面回転ナデ	
50	須恵器短頸壺	N区-301	口径(復)9.2 器高9.3	外)灰 内)灰 断)灰	堅緻	密	口縁部以外回ヨコナデ 外面底部ナデ、体部上半端ヘラ目、体部下半部から底部にかけて回転ヘラケズリ、内面ナデ	
51	黒色土器椀	N区-301	口径(復)15.6 底径(復)8.2 器高6.5	外)淡黄 内)黒 断)黒褐	良好	密	外面ナデ、指オサエ後ミガキ 内面ミガキ	
52	黒色土器椀	N区-301	口径(復)14.0 高台径7.6 器高5.4	外)にぶい黄褐 内)黒色 断)小黒	良好	やや粗	外面ナデ、高台張付のヨコナデ、内面ミガキ、ドテ部はミガキと思われるが磨滅のため不明、口縁部内面ヨコナデ	A類、外面に煤し部分あり、高台内内黒あり
53	黒色土器椀	N区-301	口径(復)16.4 器高(残)5.0	外)にぶい橙 内)暗灰 断)にぶい黄橙	良好	密	外面ヨコナデ、ナデ、剥離していてあまり見られないがヘラミガキがあったと思われる 内面ヨコナデ、ハケ目後ヘラミガキ	
54	黒色土器椀	N区-301	高台径(復)7.8 器高(残)1.1	外)にぶい黄橙 内)黒灰色 断)にぶい黄橙	良好	密	外面ヨコナデ、不明 内面ミガキ	A類
55	黒色土器椀	N区-301	高台径(復)6.2 器高(残)2.6	外)にぶい黄橙 内)黒 断)黒	やや軟	やや粗	外面回転ナデ、回転糸切り 内面回転ナデ	円盤状高台(緑釉うつし)
56	黒色土器椀	N区-301	底径(復)8.2 器高(残)1.4	外)にぶい黄橙 内)灰 断)灰	良好	密	外面ナデ、ヨコナデ 内面板ナデ	A類
57	黒色土器椀	N区-301	底径6.6 器高(残)2.65	外)暗灰 内)黒 断)灰白	良好	密	外面ヘラミガキ、ナデ、ヨコナデ 内面ナデの線刻文	B類
58	瓦器椀	N区-301	口径(復)16.2 器高(残)5.3	外)黒 内)黒 断)暗灰	良好	密	内外面ヘラミガキ	
59	瓦器椀	N区-301	口径(復)16.0 器高(残)4.4	外)灰 内)暗灰 断)灰黄	良好	密	外面ミガキ、ヨコナデ 内面ヨコナデ、ミガキ、口縁部に1条の沈線	
60	瓦器椀	N区-301	口径(復)14.6 器高(残)3.0	外)灰 内)灰 断)灰白	良好	密	外面ナデ、ヘラミガキ、指オサエの痕あり 内面ナデ、ヘラミガキ	
61	瓦器椀	N区-301	口径(復)15.2 器高(残)4.85	外)暗灰色 内)暗灰色 断)灰白	良好	密	外面ヨコナデ、指オサエ、ミガキ 内面ヨコナデ、ミガキ	
62	瓦器椀	N区-301	口径(復)14.0 器高(残)3.3	外)暗灰 内)暗灰 断)灰白	良好	密	外面指オサエ、ナデ、ミガキ 内面ヨコナデ、ミガキ	
63	瓦器椀	N区-301	高台径(復)4.6 器高(残)2.8	外)黒 内)黒 断)灰白	良好	密	外面押さえ、ナデ、高台部付近ヨコナデ 内面ヘラミガキ	
64	瓦器椀	N区-301	高台径4.5 器高(残)1.3	外)灰白 内)灰 断)灰白	やや軟	やや粗	外面ナデ、ヨコナデ 内面ミガキ、暗文	
65	瓦器椀	N区-301	高台径(復)5.4 器高(残)1.35	外)灰 内)灰 断)灰白	良好	密	外面ナデ、ヨコナデ 内面ナデ、暗文	
66	緑釉陶器皿	N区-301	口径(復)14.4 高台径7.2 器高(残)2.85	釉)小明(淡光) 断)小明(淡光)	良好	稍良	調整不明 見込み部へラミガキ(銅雲部分より廻型) 高台内露胎、他は施釉	東海系 火を受けている
67	緑釉皿	N区-301	口径(復)5.7 器高(残)1.4	外)灰 断)暗灰黄	堅緻	密	内外面回転ヘラケズリ、施釉	

挿図番号	器種	出土地点	法量 (cm)	色調	焼成	胎土	技法の特徴	備考
68	縄文時代土器	NR－301	高台径(復)6.0 器高(残)1.55	外)灰(やや青い) 内)灰(やや青い) 断)赤灰	良好	密	外面回転ナデ、回転ケズリ 内面ミガキ 外面施釉	
69	縄文時代土器 椀 o r 鉢	NR－301	器高(残) 1.7	内)赤褐 断)淡黄橙	良好	密	調整不明 内外面施釉	
70	青磁 椀	NR－301	器高(残) 5.5	内)黄褐 断)灰白	良好	密	内外面施釉	鎬逆弁文
71	青磁 椀	NR－301	器高(残) 6.6	内)オリーブ灰 断)灰白	良好	密	内外面施釉	鎬逆弁文
72	白磁 皿	NR－301	口径(復)10.5 器高(残)2.5	内)灰白 断)灰白	良好	密	内面口縁部口禿げ	
73	鍋盤上器	NR－301	脚部径(復)5.2 器高(残)5.6	外)淡黄橙 内)淡黄橙 断)淡黄橙	良好	密	外面指オサエ、ナデ 内面ナデ	
74	鍋盤上器	NR－301	口径(復)4.2 器高(残) 2.3	外)にぶい橙 内)にぶい橙 断)にぶい橙	良好	密	内外面ナデ	
75	上師器 ミニチュア土器	NR－301	口径(復)5.9 器高3.2	外)にぶい橙 内)橙 断)	良好	密	外面ヨコナデ、ナデ 内面ヨコナデ、指オサエ	
76	上師器 ミニチュア高杯	NR－301	底径(復)5.8 器高(残) 3.8	外)にぶい橙 内)にぶい橙 断)灰黄	良好	密	外面指ナデ、脚部つまんでねじった痕 内面絞り痕	手捏ね成形
77	手捏ね上器	NR－301	口径(復)5.3 器高4.0	外)灰黄 内)にぶい黄橙 断)褐灰黄	良好	密	外面ナデ 内面ナデ	
78	上製品 礎石 羽 口	NR－301	長(残)10.85 幅(残)7.45	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)灰黄	良好	やや粗	外面ナデ 内面ナデ	
79	軒丸瓦	NR－301	長さ(残)9.8 幅(残)6.0 厚	壁紙(破裂)	密	石英粒子(5) 長石 風化長石ほか	瓦粉工業用文軒丸瓦、焼傷あり	
80	丸瓦	NR－301	長さ(残)9.9 幅(残)5.85 厚さ1.9	凸)黒茶色 凹)黒茶色 断)浅黄	良好	密	凸面ナデ 凹面布目痕	
81	丸瓦	NR－301	長さ(残)8.4 幅(残)8.4 厚さ1.9	凸)にぶい黄橙 凹)にぶい黄橙 断)にぶい黄橙	良好	密	凸面ナデ 凹面布目痕	
82	丸瓦	NR－301	長さ(残)8.6 幅(残)9.7 厚さ2.3	凸)灰 凹)灰 断)灰	良好	密	凸面縄目タタキ後ナデ凹面布目痕	
83	平瓦	NR－301	長さ(残)10.3 幅(残)11.5 厚さ2.05	凸)灰 凹)灰 断)灰	良好	密	凸面縄目タタキ 凹面布目痕、ナデ	
84	平瓦	NR－301	長さ(残)6.7 幅(残)10.2 厚さ1.9	凸)灰 凹)灰 断)灰	良好	密	凸面縄目タタキ、ナデ 凹面布目痕、ナデ	
85	平瓦	NR－301	長さ(残)12.7 幅(残)7.8 厚さ1.9	凸)黒茶色 凹)灰黄 断)灰黄	良好	密	凸面縄目タタキ、ナデ 凹面布目痕	
86	平瓦	NR－301	長さ(残)7.9 幅(残)6.8 厚さ1.6	凸)灰 凹)灰 断)灰	良好	密	凸面縄目タタキ 凹面布目痕	
87	石器 石鏃	NR－301	長さ.54 幅2.01 厚0.32 重1.6g		サヌカイト			全体に激しいローリング受ける
88	石器 石鏃	NR 301	長4.03 幅2.03 厚0.32 重1.1g		サヌカイト			
89	石器 剥片	NR 301	長4.1 幅3.17 厚0.82 重9.8g		サヌカイト (金山?)			
90	石器 石剣	NR 301	長(残)8.8 幅1.7 厚0.8 重3.0g		片岩		両面に擦痕、側部に研孔あり、刃部に研磨を施した痕跡が少々、刃物上のもので打撃を加えた痕跡あり	磨製
91	石製品 紡錘 石	NR 301	長(残)18.6 幅10.2 厚8.8 重2399.9g					研磨、平用紡錘石ヵ
92	石製品 有孔円板	NR－301	長2.15 幅2.15 厚0.35 重3.0g			滑石	表裏面とも擦痕あり	
93	弥生土器盤	土器群	口径(復)24.4 器高(残)9.5	外)にぶい黄橙 内)にぶい橙 断)黒褐	やや不良	密	外面ナデ、ヨコナデ、ハケ目の後ミガキ 内面ナデ、ヨコナデ、ハケ目	
94	弥生土器盤	土器群	口径(復)23.6 器高(残)2.25	外)褐 内)橙 断)橙	良好	やや粗	外面ナデ、円形浮文、ヨコナデ、ヘラミガキ 内面剥離のため調整不明	
95	弥生土器盤	土器群	口径(復)13.4 器高(残)4.7	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)灰白	良好	密	外面ナデ、工具痕 内面ナデ、ハケ目からナデへ	
96	弥生土器広口壺	土器群	口径(復)16.0 器高(残)27.4	外)淡黄橙～灰黄褐 内)にぶい黄橙 断)にぶい黄橙	良好	密	外面ヘラミガキ、口縁部に2条のヘラ描き沈線 内面指オサエ、ハケ目、絞り上げ痕	外面体部下半一部に煤付着
97	弥生土器壺	土器群	口径(復)10.4 器高(残)10.7	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)灰白	良好	やや粗	外面、頸部ヨコナデ、頸部下半ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面は頸部横板工具によるナデ、体部縦ヘラ及び横板工具によるナデ	
98	土師器 壺	土器群	口径15.4 器高(残)14.8	外)にぶい黄橙 内)にぶい橙 断)褐灰	良好	密	外面口縁部ナデ、頸部中央部にたたき痕跡の凹凸、体部縦ヘラ磨き、頸部横ヘラ磨き、底部ヘラケズリ、ナデ、ヘラナデ、ナデ、ヘラ磨き、底部に刷毛目あり	口縁部黒ふみあり
99	弥生土器壺	土器群	口径10.5 器高(残)5.8	外)褐灰 内)にぶい黄橙 断)灰黄	良好	密	外面ハケ目 内面ハケ目、ナデ	
100	弥生土器壺	土器群	口径11.8 器高(残)12.8	外)にぶい橙 内)にぶい黄橙 断)黒褐	良好	密	外面ハケ後ナデ、頸部ナデ 内面ナデ、頸部ハケ、体部下部板ナデ 一部指オサエ痕あり、絞り上げ痕	外面体部に煤別あり
101	上師器甕	土器群	口径(復)20.0 器高(残)16.6	外)にぶい黄橙 内)褐灰 断)褐灰	良好	密	外面ハケ目(燃焼のため刷毛目無) 内面指オサエ、ナデ後板ナデ	穿孔1ヶ所確認

図版番号	器種	出土地点	法量 (cm)	色調	焼成	胎土	技法の特徴	備考
102	弥生土器底部 査	土器群	口径(復)12.6 器高(残)14.5	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)黒	良好	やや粗	外面口縁部ヨコナデ、口唇部ヨコナデ、口縁上面無節に近縄1条、胎土に長石粒含む	
103	弥生土器底部 査	土器群	口径12.0 底径5.1 器高27.1	外)にぶい黄橙 内)灰 断)灰	やや不良	密	外面口縁部ヨコナデ、頸部ヨコナデ、体部下半タテハケ、底部ハケ目、内面ヨコナデ、体部下半ヘラケズリ、底部ヘラケズリ、内面ヘラ状工具によるナデ	
104	弥生土器底部 査	土器群	口径(復)13.4 器高(残)15.5	外)灰黄 内)灰黄 断)黒褐	やや不良	密	外面口縁部ヨコナデ、頸部ヨコナデ、体部下半タテハケ、底部ハケ目、内面ヨコナデ、底部ナデ、胎土に長石粒含む	
105	上師器底部 査	土器群	口径(復)11.7 器高(残)8.8	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)黒褐	良好	密	外面ヨコナデ、板ナデ、刻み目 内面無ナデ	
106	土師器壺	土器群	口径(復)14.4 底径5.2 器高21.5	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)にぶい橙	良好	やや粗	口縁部外面ヨコナデ、頸部タテ、頸部タテ刷毛、頸部ヨコナデ、体部タテハケ、底部ナデ、胎土に長石粒含む、底部ナデ 内面ヘラ状工具ナデ	外面煤付着
107	土師器壺	土器群	口径(復)16.2 器高(残)13.9	外)褐灰 内)にぶい黄橙 断)褐灰	良好	やや粗	外面タタキ、ナデ 内面ハケ、ナデ、折オサエ	外面煤付着
108	弥生土器甕	土器群	口径(復)22.2 器高(残)7.2	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)褐灰	良好	やや粗	外面口縁部ヨコナデ、口縁部端面に1条の沈線、体部平行タタキ 内面口縁部ヨコナデ、体部内面工具によるナデ	
109	弥生土器甕	土器群	口径(復)15.0 器高(残)8.7	外)褐灰黄 内)にぶい黄橙 断)褐灰	良好	密	外面口縁部ヨコナデ、タタキ 内面ヨコナデ、ナデ	外面煤付着
110	土師器甕	土器群	口径(復)14.2 器高(残)6.8	外)にぶい橙 内)にぶい橙 断)褐灰	良好	やや粗	外面口縁部ヨコナデ、頸部櫛描文、体部ミガキ 内面口縁部ヨコナデ、体部板状工具ナデ	
111	土師器甕	土器群	口径(復)13.8 器高(残)7.2	外)灰黄 内)灰黄 断)黒褐	良好	やや粗	外面ナデ 内面板状工具によるナデ	
112	土師器甕	土器群	口径(復)14.5 器高(残)8.9	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)にぶい黄橙	良好	密	外面ヨコナデ、タタキ 内面ヨコナデ、ナデ	
113	土師器甕	土器群	口径(復)15.0 器高(残)7.6	外)灰黄褐 内)にぶい黄橙 断)黒褐	良好	やや粗	外面口縁部ヨコナデ、体部強い右上がりのナデ、内面口縁部ヨコナデ、体部板状工具によるナデと指オサエ	
114	弥生土器甕	土器群	口径(復)15.8 器高(残)9.05	外)にぶい橙 内)にぶい橙 断)灰	やや良	やや粗	外面ヨコナデ、タタキ 内面ヨコナデ、熱痕のため調整不明、ナデ	外面の一部に煤付着
115	土師器甕	土器群	口径(復)16.8 器高(残)6.6	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)褐灰	良好	やや粗	外面口縁部ヨコナデ、体部タテ、内面口縁部ヨコナデ、体部板状工具によるナデ	
116	弥生土器甕	土器群	口径17.5 底径4.6 器高32.1	外)灰白 内)にぶい黄橙～灰白 断)灰白	良好	密	外面口縁部ヨコナデ、頸の横タテ目、内面ヨコナデ、ハケナデ、内面に粘土輪痕あり	外面体部径分割に煤付着、内面のハケナデは外そ を強くと輪状のナデに切られている
117	弥生土器甕	土器群	口径(復)15.4 器高(残)18.5	外)にぶい橙 内)にぶい橙 断)褐灰	やや不良	密	口縁部内外面ナデ、外面タテ目、胴部タテハケ、ヨコナデ、接合痕がそなに残る	外面体部ドロに煤付着
118	弥生土器底部	土器群	口径(復)10.0 器高(残)3.5	外)灰黄 内)にぶい黄橙 断)褐灰	良好	やや粗	外面ナデ、タタキ 内面ナデ	
119	弥生土器甕	土器群	口径16.0 器高(残)15.4	外)にぶい黄 内)にぶい黄 断)黄灰	良好	密	口縁部内外面ナデ、外面タタキ、頸部に刻み目 内面板ナデ	外面体部ドロに煤付着
120	土師器甕	土器群	口径(復)16.9 器高(残)10.35	外)にぶい黄橙 内)にぶい橙 断)灰	やや良	やや粗	外面ヨコナデ、タタキの接ナデ消し、タタキ 内面ヨコナデ、板ナデ	外面煤付着
121	弥生土器甕	土器群	口径(復)17.6 器高(残)3.3	外)橙 内)橙 断)浅黄橙	良好	やや粗	外面口縁部ヨコナデ、胴部タタキ接ナデ後連続刷毛文 内面ヨコナデ	外面口縁部煤付着
122	土師器甕	土器群	口径(復)16.0 器高(残)5.4	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)褐灰	良好	やや粗	外面口縁部ヨコナデ、体部タタキ接ナデハケ 内面口縁部ヨコナデ、体部斜めハケ	
123	弥生土器甕	土器群	胴部径(復)16.4 底径5.2 器高(残)10.0(12.3)	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)褐灰	良好	密	外面タタキ、一部板ナデ 内面ナデ(指、板)	
124	土師器甕	土器群	底径5.9 器高(残)10.8	外)灰黄褐 内)灰黄褐 断)黒灰	良好	密	外面タタキ、ナデ 内面ナデ	
125	弥生土器壺	土器群	口径(復)20.4 器高(残)10.3	外)にぶい橙 内)にぶい橙 断)褐黄灰	やや良	やや粗	外面ナデ、ヨコナデ、タタキの接ナデ消し、タタキ 内面ナデ、うっすら指オサエの後ナデ調整さる	
126	弥生土器高杯	土器群	口径(復)20.6 器高(残)6.3	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)黄灰	良好	やや粗	外面口縁部ヨコナデ、体部タテハケ後ナデ消し 内面タテミガキ	
127	弥生土器有孔鉢	土器群	口径16.0 脚部径16.2 底径5.8 器高13.2	外)にぶい黄橙 内)にぶい橙 断)灰白	良好	やや粗	外面上半ヨコハケかちタテハケを経て斜めハケ、下半タテハケ 内面上半ヨコハケ、口縁部は指オサエ、下半ナデ	外面に黒斑あり
128	土師器鉢	土器群	口径(復)18.9 器高(残)13.8	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)小明	良好	やや粗	外面横ハケタテ、体部下半部タテ刷毛 内面上半横ナデ、下半タテ、下半部横ハケ、粘土輪痕目あり、口縁部内面ヨコナデはたらきず	片口状、外面に黒斑あり
129	弥生土器高杯	土器群	底径5.9 器高(残)4.4	外)灰黄 内)灰 断)灰白	やや良	密	外面ナデ(タテ方向に強く少し見られる)、指オサエの後ナデ消し 内面ナデ	
130	弥生土器高杯	土器群	底径(復)19.4 器高(残)9.4	外)にぶい橙 内)にぶい橙 断)橙	良好	密	外面ミガキ、ハケ(横)の後ミガキ、ヨコナデ、ナデ 内面ナデ、ハケ目、接状工具による ナデ	
131	弥生土器高杯	土器群	器高(残)6.2	外)橙 内)橙 断)橙	やや不良	やや粗	外面ヘラ磨き(底部1条1単位と全1組)、タテヘラミガキ 内面板ヨコ目	
132	弥生土器高杯	土器群	底径10.2 器高(残)4.0	外)にぶい黄橙 内)にぶい橙 断)浅黄	良好	密	外面ミガキ、ナデ 内面ナデ、〔兵庫	
133	弥生土器手捏り型土器	土器群	脚部径(復)16.8 器高(残)8.65	外)橙 内)にぶい褐 断)灰	やや良	密	外面ナデ(うっすらハケ目の痕が見える) 内面ハケ目	
134	弥生上器壺	土器群	脚部径(復)17.2 器高(残)4.4	外)にぶい黄橙 内)黄灰 断)灰黄	良好	密	外面ナデ、ハケ目、押型文 内面板ナデ	
135	弥生上器壺	SK－401	口径(復)35.4 器高(残) 4.5	外)灰黄褐 内)にぶい黄橙 断)にぶい褐	良好	密	外面ヨコナデ 内面ヨコナデ、ミガキ	

挿図番号	器種	出土地点	法量 (cm)	色調	焼成	胎土	技法の特徴	備考
136	弥生上器甕	SK－401	口径12.65 底径5.6 器高15.15	外)紫灰 内)灰白 断)灰	良好	やや粗	外面ヘラミガキ、タタキ、ナデ 内面ヘラミガキ、ヘラケズリ	
137	上師器甕	SK－401	口径(復)16.4 器高(残)5.8	外)灰黄褐 内)灰黄 断)灰黄	良好	密	外面ヨコナデ、タタキ 内面ヨコナデ、ナデ	外面煤付着
138	上師器甕	SK－401	口径(復)14.0 器高(残)7.6	外)にぶい赤褐 内)にぶい赤褐 断)にぶい赤褐	良好	密	外面ミガキ(胴成のため詳細不明) 内面ミガキ(胴成のため詳細不明)	外面煤付着
139	上師器甕	SK－401	口径(復)16.6 器高(残)9.2	外)浅黄橙 内)暗灰 断)灰	良好	密	外面ナデ 内面ナデ、ヘラミガキ、板ナデ	
140	弥生上器甕	SK－401	口径(復)15.0	外)黒 内)にぶい黄橙 断)灰	良好	密	外面ヨコ方向ナデ 内面ナデ、板ナデ	外面煤付着
141	上師器甕(　　)	SK－401	器高(残)22.3	外)灰白 内)灰黄褐 断)灰白	良好	やや粗	外面体部上半ヨコハケ、体部下半タテハケ 内面ケズリ、指オサエ	
142	上師器甕	SK－401	底径(復)3.6 器高(残)4.4	外)灰黄褐 内)にぶい黄褐 断)黒灰	良好	やや粗	外面ハケ、タタキ後ハケ 内面板ナデ	外面煤付着
143	上師器杯高台	SK－401	口径(復)18.1 器高(残)5.0	外)明赤褐 内)明赤褐 断)灰白	良好	やや粗	外面ヨコナデ、不明 内面不明	
144	上師器杯	SK－401	口径16.4 器高4.8	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)	良好	密	外面ヨコナデ、底部ヘラケズリ 内面ヨコナデ、ナデ	黒斑あり
145	上師器甕	SK－401	口径(復)41.2 器高(残)21.6	外)浅黄橙 内)にぶい橙 断)灰白	良好	密	外面ヨコナデ、タタキ、胴で工具痕のこる 内面ナデ、工具痕らしき痕あり	磨滅が著しい
146	上師器器台	SK－401	口径10.45 底径9.2器高8.6	外)にぶい橙 内)橙 断)にぶい橙	良好	密	外面ミガキ 内面板ナデ、ナデ、ミガキ	脚部に穿孔3ヵ所確認
147	上師器器台	SK－401	口径9.2 底径11.7 器高7.4	外)橙 内)橙 断)浅黄橙	良好	密	外面ハケ目、ミガキ 内面ハケ目、ナデ	黒斑あり
148	上師器甕	SK－402	口径(復)15.8 器高(残)9.5	外)赤橙 内)にぶい褐 断)にぶい橙	良好	やや粗	外面ヨコナデ、タタキ 内面板ナデ	
149	上師器甕	SK－402	口径(復)16.4 器高(残)6.75	外)浅黄橙 内)灰黄褐 断)灰黄褐	良好	密	外面ナデ、タタキ、胴で工具痕のこる 内面ナデ、工具痕らしき痕あり	
150	上師器甕	SK－402	口径(復)13.2 器高(残)4.45	外)にぶい黄 内)にぶい黄 断)にぶい黄	良好	やや粗	外面タタキ、ヨコナデ、口縁の一部に組み目のような切込みあり 内面ヨコナデ、ナデ	
151	上師器甕	SK－402	口径(復)10.0 器高(残)7.0	外)にぶい橙 内)にぶい橙 断)にぶい橙	良好	やや粗	外面ヨコナデ、タタキ、指オサエ 内面板ナデ	
152	上師器鉢	SK－402	底径(復)5.8 器高(残)3.6	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)にぶい黄橙	良好	やや粗	外面タタキ後タテハケ 内面板状工具による(クモの巣状)ナデ	
153	上師器甕	SK－402	底径3.8 器高(残)3.4	外)にぶい黄橙 内)灰黄 断)灰黄	良好	粗	外面ナデ 内面板ナデ	
154	弥生土器甕	SK－402	底径3.6 器高(残)7.0	外)灰黄褐 内)褐灰 断)灰黄褐	良好	密	外面タタキ、ナデ 内面ナデ	
155	上師器甕	SK－402	底径4.7 器高(残)1.8	外)にぶい黄橙 内)灰黄 断)黄灰	良好	密	外面タタキ、ナデ 内面板ナデ	
156	上師器甕	SK－402	底径6.0 器高(残)3.45	外)にぶい橙 内)にぶい橙 断)にぶい橙	良好	やや粗	外面板状工具の痕あり、底部貼り付け、工具痕あり 内面ナデ	
157	上師器壺	SK－402	口径(復)11.0 器高(残)2.9	外)橙 内)橙 断)黒	良好	密	外面ヨコナデ、竹管文 内面不明	
158	上師器壺	SK－402	口径(復)14.0 器高(残)3.9	外)にぶい橙 内)にぶい橙 断)黒	良好	密	内外面ヨコナデ 内面頂部トチケズリ	
159	上師器甕	SK－402	口径(復)14.2 器高(残)3.6	外)にぶい黄橙 内)にぶい橙 断)浅黄	良好	密	外面ヨコ方向ナデ 内面ヨコ方向ナデ	
160	上師器甕	SK－402	口径(復)16.1 器高(残)4.35	外)黄灰 内)灰黄 断)灰黄	良好	密	外面ヨコナデ、ナデ 内面ヨコナデ、ナデ	
161	上師器甕	SK－402	口径(復)13.2 器高(残)3.3	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)灰白	良好	密	外面ヨコナデ、タタキ 内面ヨコナデ、板ナデ	外面煤付着
162	上師器甕	SK－402	口径(復)19.4 器高(残)3.4	外)灰白 内)にぶい橙 断)淡赤橙	良好	やや粗	外面ヨコナデ 内面板ナデ	
163	上師器小型丸底壺	SK－402	口径(復)7.4 器高(残)3.55	外)にぶい黄橙 内)にぶい橙 断)にぶい黄橙	良好	密	外面ヨコナデ、ナデ(ハケ後ナデ)ケズリ、胴部にわずかにハケの痕あり 内面ヨコナデ、ナデ	
164	上師器杯高台	SK－402	器高(残)3.0	外)にぶい橙 内)にぶい橙 断)にぶい黄橙	良好	密	外面板ナデ、ミガキ 内面シボリ痕、ナデ	
165	土製品円板	SK－402	長11.9 幅12.4 厚5.4 重1,100g	表)にぶい黄橙 裏)灰白 断)灰	良好	密	表面タテハケ 裏面指ナデ 側面磨滅	十師器壺転用ヵ
166	石製品敲石	SK－402	長(残)8.8 幅6.5 厚5.8 重667.9g					使痕、上端打痕、研磨面もみられ敲石の転用ヵ
167	縄文土器深鉢	NR－401	器高(残)3.9	外)褐 内)褐 断)黒	良好	密	内外面磨滅のため調整不明	
168	土師器壺	NR－401	L径(復)24.6 器高(残)4.1	外)にぶい橙 内)にぶい黄橙 断)褐灰	やや良	やや粗	外面波状文、ヨコナデ、ナデ 内面ヨコナデ、ナデ	外面に黒斑あり
169	上師器壺	NR－401	L径(復)20.8 器高(残)6.65	外)にぶい橙 内)にぶい黄橙 断)灰	良好	やや粗	外面ヨコナデ 内面不明	内面に黒斑あり

図版番号	器種	出土地点	法量 (cm)	色調	焼成	胎土	技法の特徴	備考
170	土師器 壺	NR-401	口径(復)18.0 器高(残) 4.2	外)黒 内)黄褐 断)黄灰	良好	密	外面ヨコナデ 内面ヨコナデ、ケズリ	
171	土師器 椀	NR-401	口径10.4 器高3.4	外)橙 内)橙 断)橙	やや不良	密	外面ミガキ 内面横方向のナデ、暗文(放射状)	内面に黒色の付着物、鉄分の結着
172	土師器 皿	NR-401	口径(復)8.8 器高(残) 1.55	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)にぶい黄橙	良好	密	外面回転ナデ、底部回転糸切り 内面回転ナデ	同転台土師器
173	土師器皿	NR-401	口径(復)7.4 器高2.0	外)灰白 内)淡黄 断)淡黄	良好	密	内外面ナデ	
174	須恵器蓋	NR-401	口径(復)12.0 器高(残)3.75	外)灰 内)灰 断)灰黒	堅緻	密	内外面回転ナデ	内面降灰あり
175	須恵器蓋	NR-401	口径(復)16.4 器高(残)0.7	外)灰 内)灰 断)灰	堅緻	密	外面回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面回転ナデ	
176	須恵器杯身	NR-401	口径(復)13.8 器高(残)3.8	外)灰白 内)灰白 断)灰白	堅緻	密	外面回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面回転ナデ	外面降灰あり
177	須恵器杯	NR-401	口径(復)12.4 器高(残)3.75	外)灰 内)暗紫灰 断)暗紫灰	堅緻	密	外面回転ナデ、高台貼り付けのヨコナデ、ナデ 内面回転ナデ、ナデ	
178	須恵器杯	NR-401	底径(復)13.3 器高(残)2.8	外)灰 内)灰 断)灰	堅緻	密	外面回転ナデ、高台貼り付けのヨコナデ 内面回転ナデ	
179	須恵器蓋	NR-401	口径5.5 器高(残)5.3	外)灰 内)灰 断)灰	堅緻	密	外面摘ナデ、回転ナデ 内面回転ナデ	
180	須恵器壺	NR-401	底径(復)8.6 器高(残)6.4	外)灰(青っぽい) 内)灰(青っぽい) 断)灰(ブルー灰色っぽい)	堅緻	密	外面ナデ、ヨコナデ 内面回転ナデ、底部回転糸切り	
181	須恵器 不明	NR-401	器高(残) 2.3	外)灰白 内)灰白 断)灰白	やや軟	やや粗	内外面ナデ	墨書あり
182	須式系土器 壺(?)	NR-401	器高(残) 4.0	外)明赤褐 内)にぶい赤褐 断)にぶい赤褐	良好	密	外面格子目タタキ 内面ナデ	転質
183	須式系土器 甕(?)	NR-401	器高(残) 4.2	外)灰 内)灰 断)赤灰	堅緻	密	外面ナデ、縄圧文、1条の沈線 内面ナデ	硬質
184	埴輪 (底部?)	NR-404		外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)にぶい黄橙	良好	やや粗	外面ヨコハケ後タテハケ 内面ケズリ後ナデ	
185	緑釉陶器 椀	NR-404	口径(復)14.5 器高(残) 2.3	釉)濃緑 胎)灰白	良好	精良	調整不明 内外面施釉	
186	緑釉陶器 椀	NR-401	器高(残) 3.7	釉)不明 胎)灰白	良好	精良	調整不明 内外面施釉	火を受けている
187	緑釉陶器 椀	NR-401	器高(残) 3.5	釉)濃緑 胎)灰	良好	精良	調整不明 内外面施釉	火を受けている
188	緑釉陶器 椀	NR-401	高台径(復)6.9 器高(残) 2.3	釉)濃緑 胎)灰白	良好	精良	調整不明 全面施釉	近江系 火を受けている
189	緑釉陶器 椀or皿	NR-401	高台径(復)6.5 器高(残) 1.4	釉)濃緑(変火) 胎)灰白	良好	精良	調整不明 全面施釉	近江系 火を受けている
190	緑釉陶器 椀or皿	NR-401	高台径(復)6.4 器高(残) 2.0	釉)オリーブ黄 胎)灰白	良好	精良	調整不明、高台削り出し、目跡あり 高台内底部、他は施釉	京都系
191	緑釉陶器 椀or皿	NR-401	器高(残) 1.2	釉)明濃緑 胎)淡黄	良好	精良	調整不明 高台内底部、他は施釉	近江系or東海系
192	灰釉陶器壺	NR-401	高台径(復)9.0 器高(残)3.6	外)灰 内)灰 断)淡黄	堅緻	密	外面回転ナデ、糸切り痕 内面回転ナデ 外面施釉	
193	灰釉陶器 椀	NR-401	高台径(復)7.6 器高(残) 2.4	外)灰白 内)灰白 断)灰白	良好	密	外面回転ケズリ 内面ヘラミガキ	釉質は観察できない
194	口縁部	NR-401	器高(残) 2.6	釉)灰白 胎)灰白	良好	密	内外面施釉	
195	丸瓦	NR-401	残長12.75 残幅8.9 厚3.8	内)にぶい黄橙 凸)灰 断)灰	良好	密	凸面ナデ 凹面布目痕	
196	丸瓦	NR-401	残長11.8 残幅9.5 厚3.5	凸)黒灰 凹)黒灰 断)淡黄	良好	密	凸面ナデ 凹面布目痕	
197	丸瓦	NR-401	残長14.5 残幅9.3 厚3.4	凸)暗灰 凹)黒灰 断)灰黄	良好	密	凸面ナデ 凹面布目痕	
198	平瓦	NR-401	残長11.8 残幅11.3 厚2.1	凸)灰 凹)灰(明)灰白	良好	密	凸面縄目タタキ 凹面布目痕	
199	平瓦	NR-401	残長14.2 残幅13.6 厚1.95	凸)灰 凹)黒灰 断)灰	良好	密	凸面縄目タタキ 凹面布目痕	
200	平瓦	NR-401	残長10.1 残幅12.4 厚2.3	凸)灰 凹)灰黄 断)灰白	良好	密	凸面縄目タタキ 凹面布目痕	
201	平瓦	NR-401	残長11.2 残幅16.1 厚2.3	凸)黒灰 凹)灰 断)灰	良好	密	凸面縄目タタキ 凹面布目痕	
202	平瓦	NR-401	残長11.9 残幅9.5 厚1.6	凸)黒灰 凹)黒灰 断)灰黄	良好	密	凸面縄目タタキ 凹面布目痕	
203	石器 石鏃	NR-401	長さ.63 幅1.71 厚0.39 重さ.9g			チャート		押圧剥離の痕跡が顕著にみられる

挿図番号	器種	出土地点	法量 (cm)	色調	焼成	胎土	技法の特徴	備考
204	石製品 鉢	NR－401	厚8.4 幅5.65 厚1.85 重136.7g			片岩		
205	石製品 不明	NR－401	厚6.4 幅5.4 厚1.7 重98.0g					研磨
206	石製品 版石	NR－401	厚11.6 幅5.6 重1113.0g					自然面、打痕
207	石製品 石皿	NR－401	厚(残)6.5 幅5.2 厚5.4 重258.2g					研磨、擦痕
208	石製品 石皿	NR－401	厚(残)10.5 幅(残)7.0 厚5.4 重539.5g					研磨、土用熱紙ｱﾘｽ
209	石製品 鉄錆	NR－401	厚5.55 幅3.95 厚0.95 重20.0g					研磨
210	石製品 砥石	NR－401	厚5.15 幅5.15 厚1.05 重13.2g			溶石		研磨
211	銭貨神功開寶	NR－401	径2.6 厚0.10 内径0.7×0.05					765年
212	銭貨貞観永寶	NR－401	径1.9					870年
213	銭貨乾元大寶	NR－401	径2.05 厚0.15 内径0.45×0.45					958年
214	金属製品耳輪	NR－401	径3.1 厚0.25					
215	金属製品蓋金具蕨方	NR－401	長22.7 幅22.5					
216	金属製品鉄子	NR－401	長さ4.5					
217	縄文土器鉢	NR－402	器高(残) 4.6	外)黄褐 内)にぶい黄褐 断)黄褐	良好	粗	外面縄文、沈線文 内面ナデ	
218	弥生土器甕	NR－402	器高(残) 7.4	外)にぶい黄褐 内)黄灰 断)褐灰黄	良好	やや粗	外面ケズリ、刺み目突帯 内面板ナデ	内外面煤付着
219	弥生土器甕	NR－402	器高(残) 9.9	外)にぶい褐 内)にぶい黄褐 断)にぶい黄褐	良好	密	外面板ナデ、刺み目突帯 内面ナデ上折すサエ	外面煤付着
220	縄文土器鉢	NR－402	器高(残) 6.1	外)にぶい黄褐 内)褐 断)黒褐	良好	やや粗	外面ヨコナデ、ケズリ 内面ナデ	口縁に黒斑あり
221	弥生土器甕	NR－402	口径(復)23.0 器高(残) 6.25	外)橙 内)明褐 断)橙	良好	やや粗	外面ナデ、刺み目(磨滅著しい) 内面ナデ、折すサエ	
222	土師器甕	NR－402	口径(復)14.4 器高(残) 6.0	外)浅黄 内)浅黄 断)黄灰	良好	やや粗	外面ヨコナデ、ケタキ 内面ヨコナデ、板ナデ	
223	土師器甕	NR－402	底径3.3 器高(残) 10.9	外)にぶい黄橙 内)明黄褐 断)にぶい橙	良好	やや粗	外面ケタキ、ナデ 内面板ナデ	
224	土師器有孔鉢	NR－402	底径4.5 器高(残) 4.8	外)褐灰黄 内)黄褐 断)黄灰	良好	密	外面ケタキ 内面ナデ	底部に板圧痕あり
225	土師器甕	NR－402	口径(復)9.4 器高(残) 6.5	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)にぶい黄橙	良好	やや粗	外面ヨコナデ、ケタキ 内面ナデ	
226	弥生土器壺	NR－402	口径(復)16.6 器高(残) 7.0	外)褐 内)暗褐 断)暗褐	良好	密	外面ヨコ方向ナデ、ナデ 内面ナデ	
227	弥生土器壺	NR－402	口径(復)20.4 器高(残) 5.6	外)にぶい橙 内)橙 断)浅黄橙	良好	密	外面ヨコナデ、ハケ、工具による施文 内面ヨコナデ、工具による施文、ミガキ	
228	土師器甕	NR－402	最大径(復)16.1 器高(残) 5.6	外)浅黄 内)灰黄 断)灰黄	良好	密	外面ヨコナデ、ハケ、指オサエ、工具痕あり 内面ホ明	
229	土師器鉢	NR－402	口径(復)17.8	外)にぶい黄褐 内)にぶい黄橙 断)にぶい黄橙	不良	密	外面ヨコナデ 内面ヨコナデ、ケズリ	
230	土師器壺	NR－402	最大径(復)22.7 器高(残) 12.25	外)にぶい黄橙 内)灰黄 断)灰白	良好	密	外面ヨコナデ 内面ヨコナデ、板ナデ、ナデ	内面に黒斑あり
231	弥生土器壺	NR－402	口径(破大)23.5 (実測復用)22.8 器高(残)7.3	外)橙 内)橙 断)浅黄橙	やや良	密	内外面横方向のナデ、口縁部に施文	
232	土師器壺	NR－402	口径(復)10.0 器高(残) 5.9	外)浅黄 内)にぶい橙 断)褐灰	良好	密	外面ヨコナデ、タテハケ後ヨコハケ 内面ヨコナデ、ケズリ	
233	土師器壺	NR－402	口径(復)19.3 器高(残) 7.9	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)灰白	良好	密	外面ヨコナデ 内面ハケ後ナデ消し	
234	弥生土器壺	NR－402	胴体径(残)29.2 器高(残)27.05	外)橙 内)灰白 断)灰白	良好	密	外面ナデ、ハケ 内面ケズリ、体部上部に横方向のナデ	外面煤付着
235	土師器円筒(？)	NR－402	口径(復)11.8 器高(残) 8.15	外)橙 内)にぶい橙 断)にぶい赤褐	良好	密	外面ハケ目(磨滅のため調整不明) 内面ハケ目(磨滅のため調整不明)	外面煤跡あり
236	土師器小型丸底壺	NR－402	口径(復)7.4 最大径(復)8.6 器高(残) 5.25	外)灰黄 内)にぶい黄 断)灰黄	良好	密	外面ナデ、ハケ後ナデ 内面ナデ	外面煤付着
237	土師器甕	NR－402	口径(復)17.2 器高(残) 4.0	外)灰黄 内)黄灰 断)黄灰	良好	密	外面ナデ、ハケ 内面板ナデ、ヘラケズリ	

博物館番号	器種	出土地点	法量（cm）	色調	成形	胎土	技法の特徴	備考
238	土師器 甕	NR 402	口径(復)13.8 器高(残) 4.9	外)オリーブ褐 内)にぶい橙 断)にぶい橙	良好	密	外面ヨコナデ，タテハケ後ヨコハケ 内面ヨコナデ，ケズリ	
239	土師器 甕	NR 402	口径(復)13.0 器高(残)18.2 器高(残) 10.3	外)浅黄橙 内)灰白 断)灰白	良好	密	外面ヨコナデ，ハケ 内面ヨコナデ，指オサエ，ケズリ	外面煤付着
240	土師器 小型丸底鉢	NR 402	口径(復)16.0 器高(残) 4.1	外)にぶい橙 内)にぶい橙 断)灰黄	良好	密	外面ナデ 内面ナデ	
241	土師器平鉢	NR 402	口径(復)14.0 器高(残)5.0	外)橙 内)橙 断)橙	良好	密	内外面ヨコナデ，ナデ	
242	土師器	NR 402	口径(復)22.2 器高(残) 9.6	外)橙 内)橙 断)橙	良好	やや粗	外面タテハケ，ヨコハケ 内面横位工具ナデ	外面黑斑あり
243	弥生土器高杯	NR 402	口径22.4 器高(残)6.8	外)にぶい黄橙 内)灰黄 断)灰白	良好	密	口縁端部外面横ナデ，沈線，間内面縦筋放射状文，体部外面ヘラ削のミガキ，脚端部放射状ナデ，杯内面ヨコナデ，脚内面縦方向のミガキ	休部外面の列点文は脚によるもの
244	土師器高杯	NR 402	口径15.5 器高(残)12.0	外)灰白 内)浅黄橙 断)浅黄橙	良好	やや粗	坏部内外面ヨコハケ 脚部外面ヘラナデ 脚部内面ヘラケズリ，絞り目	
245	土師器 高杯	NR 402	口径(復)15.8 器高(残) 4.65	外)橙 内)橙 断)黄灰	良好	密	内外面ヨコナデ	
246	土師器高杯	NR 402	口径16.6 器高(残)5.2	外)浅黄橙 内)浅黄橙 断)灰白	良好	密	内外面ヨコナデ，ナデ，外面に粘土継ぎ目あり	
247	土師器高杯	NR 402	器大径(復)8.6 器高(残)2.9	外)橙 内)橙 断)橙	やや軟	密	内外面ヨコナデ	
248	土師器 高杯	NR 402	底径(復)11.2 器高(残) 9.6	外)橙 内)浅黄橙 断)浅黄橙	良好	やや粗	外面タテミガキ，ケズリ 内面ナデ，シボリ	
249	土師器 高杯	NR 402	杯部径(復)11.0 器高(残) 13.9	外)にぶい橙 内)にぶい橙 断)褐灰	良好	やや粗	外面ハケ後ミガキ 内面シボリ目，ナデ	脚部にミゴ所(欠元)透し孔が入ると思われる
250	土師器	NR 402	器大径(残)13.4 器高(残) 3.7	外)にぶい黄橙 内)橙 断)橙	やや軟	やや粗	外面タテハケ，ヨコハケ後放射状文 内面ミガキ	
251	土師器 台	NR 402	底径(復)11.0 器高(復) 5.0	外)橙 内)橙 断)橙	良好	密	外面ナデ 内面不明	
252	須恵器 杯蓋	NR 402	口径(復)13.0 器高(残) 4.7	外)灰 内)灰 断)灰	堅緻	密	外面回転ヘラケズリ，回転ナデ 内面回転ナデ	
253	須恵器 杯蓋	NR 402	口径(復)14.6 器高(残) 4.8	外)灰 内)灰 断)灰	堅緻	密	外面回転ナデ，回転ヘラケズリ 内面回転ナデ	
254	須恵器蓋	NR 402	口径(復)14.3 器高(残)	外)灰 内)灰 断)灰	堅緻	密	外面回転ナデ，回転ヘラケズリ 内面回転ナデ，ナデ	
255	須恵器蓋	NR 402	口径(復)10.2 器高5.3	外)灰白 内)灰白 断)灰白	堅緻	密	口縁部内外面ヨコナデ 外面ナデ，回転ヘラケズリ 内面ナデ	
256	須恵器杯	NR 402	口径2.1 器大径4.5 器高5.35	外)明オリーブ灰 内)灰白 断)灰白	堅緻	密	外面回転ナデ，回転ヘラケズリ 内面回転ナデ，ナデ	
257	須恵器杯	NR 402	口径(復)11.8 器大径(復)14.0 器高3.85	外)灰 内)灰 断)灰	堅緻	密	外面回転ナデ，回転ヘラケズリ 内面回転ナデ，ナデ	
258	須恵器 杯	NR 402	口径(復)13.4 器大径(復)16.0 器高(残) 4.2	外)灰白 内)灰白 断)灰黄	堅緻	密	外面回転ナデ，回転ヘラケズリ 内面回転ナデ	
259	須恵器杯身	NR 402	口径11.2 器大径13.8 器高4.1	外)灰 内)灰 断)灰	堅緻	密	外面回転ナデ，回転ヘラケズリ 内面回転ナデ	調整方向は時計回り
260	須恵器 壺	NR 402	口径(復)21.4 器高(残) 6.1	外)灰 内)灰 断)灰赤	良好	密	外面カキ目，回転ナデ，波状文 内面回転ナデ	
261	須恵器壺	NR 402	口径(復)18.0 器高(残)5.6	外)褐灰 内)灰 断)灰白	堅緻	密	外面回転ナデ，つまみだし 内面回転ナデ	陰灰あり
262	須恵器 蓋	NR 402	口径(復)14.7 器高(残) 5.0	外)灰白 内)灰白 断)黄褐	堅緻	密	外面回転ナデ 内面ナデ	
263	須恵器高杯	NR 402	底径10.0 器高(残)4.6	外)灰 内)にぶい橙 断)にぶい橙	軟(土師質)	密	内外面回転ナデ	穿孔(円形)はミゴ所確認。おそらくミゴ所はあると思われる
264	須恵器平鉢	NR 402	器大径(復)18.7 器高(残)11.8	外)明灰黄 内)明灰黄 断)灰白	堅緻	密	外面回転ナデ，回転ヘラケズリ 内面回転ナデ	
265	須恵器 高杯	NR 402	器大径(復)15.3 器高(残) 12.35	外)暗灰黄 内)暗灰黄 断)暗灰黄	堅緻	密	外面回転ナデ，カキ目，櫛描波状文 内面回転ナデ，絞りオサエ，ナデ，工具痕	内外面とも陰灰あり，長方形の透し孔5ヶ所あり
266	韓式系土器 壺	NR 402	器高(残) 3.4	外)にぶい橙 内)にぶい橙 断)にぶい橙	良好	密	外面格子目タタキ 内面ナデ	軟質
267	韓式系土器 壺（？）	NR 402	器高(残) 3.2	外)明灰褐 内)黒灰 断)明褐	良好	密	外面ミガキの比線，その間に櫛描文 内面ナデ	軟質
268	須恵器 甕	NR 402	器高(残) 3.5	外)灰 内)灰 断)褐灰	良好	密	外面回転ナデ，櫛描文 内面回転ナデ，ナデ	
269	渡来土器 鉢	NR 402	器高(残) 4.15	外)灰白 内)灰白 断)にぶい黄橙	良好	やや粗	外面ナデ，ケズリ 内面ヨコナデ，ナデ	
270	製塩土器	NR 402	器高(残) 3.05	外)にぶい黄橙 内)浅黄橙 断)明灰	良好	密	内外面ナデ	
271	手捏ね土器	NR 402	底径4.2 器高(残) 3.0	外)灰黄 内)にぶい黄 断)灰	良好	密	外面ナデ，工具痕あり 内面指ナデ	

挿図番号	器種	出土地点	法量 (cm)	色調	焼成	胎土	技法の特徴	備考
272	手捏台上器蓋	NR－402	口径(復)10.0 器高3.2	外)淺黄 内)淺黄 断)灰黄	良好	密	外面ナデ 内面ナデ	外面黒斑あり
273	上師器杯(手捏台)	NR－402	口径(復)10.6 器高3.2	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)にぶい橙	良好	密	外面ナデ 内面ナデ	
274	転土上器手捏台土師器	NR－402	口径6.15 最大径6.9 器高2.7	外)にぶい黄橙 内)にぶい橙 断)橙	良好	やや粗	外面ハケ目、指オサエ 内面指オサエ、指ナデ、外面に粘土のつなぎ目見える	
275	石器 台脚	NR－402	長2.86 幅2.25 厚0.33 重1.6g			サヌカイト		剥離少ない、調整粗く未製品の可能性あり
276	石器 台脚	NR－402	長3.06 幅1.59 厚0.4 重1.5g			サヌカイト		全体にローリング受ける
277	石器 台脚	NR－402	長5.67 幅1.75 厚0.42 重2.9g			サヌカイト		全体にローリング受ける
278	石器 台脚	NR－402	長4.32 幅1.43 厚0.42 重2.7g			サヌカイト		全体にややローリング受ける
279	石器 尖頭器	NR－402	長8.0 幅3.2 厚1.25 重35.0g			サヌカイト		全面剥離だがローリングのため不明瞭
280	石器 石匙	NR－402	長5.45 幅3.4 厚0.85 重11.0g			サヌカイト	調整は長く強い押圧調整が行われたと考えられる	使用痕はあまりみられない
281	石製品 磨石	NR－402	長(残)3.0 幅(残)1.6 厚0.8 重12.8g					研磨、擦痕、一部に敲打痕らしき痕跡あり
282	石製品 磨石	NR－402	長(残)8.1 幅6.4 厚2.9 重721.6g					4面あり
283	石製品 磨石	NR－402	長(残)5.9 幅(残)2.2 厚1.1 重20.5g					研磨、擦痕
284	石製品 磨石	NR－402	長18.0 幅7.2 重1378.9g					研磨、敲打痕、玉砥石
285	石製品 磨石	NR－402	長16.0 幅6.0 厚1.7 重264.2g					研磨、擦痕、敲打痕、玉砥石
286	石製品 磨石	NR－402	長17.1 幅6.9 厚2.5 重328.2g					研磨、擦痕、敲打痕、玉砥石
287	縄文上器浅鉢	NR－403	器高(残) 5.4	外)灰 内)にぶい黄 断)黄灰	良好	やや粗	外面縄文、沈線文 内面指オサエ	
288	縄文上器不明	NR－403	器高(残) 3.5	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)にぶい黄橙	良好	やや粗	外面沈線文 内面不明	
289	縄文上器不明	NR－403	器高(残) 3.7	外)褐灰黄 内)にぶい黄橙 断)黄灰	良好	やや粗	外面縄文 内面不明	
290	縄文上器浅鉢	NR－403	器高(残) 7.7	外)橙 内)明褐 断)橙	良好	やや粗	外面縄文 内面ナデ	
291	縄文上器鉢	NR－403	器高(残) 5.7	外)にぶい黄橙 内)褐灰 断)褐灰橙	良好	やや粗	外面不明 内面指オサエとナデ	
292	縄文上器浅鉢	NR－403	器高(残) 2.9	外)にぶい黄橙 内)灰黄褐 断)にぶい黄橙	良好	密	外面ナデ、貼付突帯に刻み目あり 内面ナデ	
293	土師器鉢	NR－403	口径(復)15.6 器高(残) 4.25	外)褐灰黄 内)黄橙 断)にぶい黄	良好	密	内外面ヨコナデ、ナデ	外面煤付着
294	弥生上器壺	NR－403	底径(復)10.9 器高(残) 3.65	外)にぶい橙 内)にぶい黄橙 断)灰黄褐	良好	やや粗	外面ナデ、1条沈線(網) 内面ナデ	逆し孔あり
295	石剥器	NR－403	長5.47 幅3.65 厚1.19 重28.9g			サヌカイト		
296	石剥器	NR－403	長3.3 幅3.9 厚1.7 重107.4g			サヌカイト	打ち欠きにより微細な刃部を作る	
297	石剥器	NR－403	長7.0 幅4.2 厚1.65 重38.1g			サヌカイト		二次加工部位は風化が強い
298	石剥器	NR－403	長3.32 幅3.5 厚0.93 重10.8g			サヌカイト		
299	石製品 石鏃	NR－403	長2.3 幅1.4 厚1.0 重1.5g					研磨
300	石製品 石鏃	NR－403	長(残)2.5 幅2.5 厚1.2 重3.3g					研磨、無数の擦痕
301	石製品 石鏃	NR－403	長(残)14.6 幅12.7 厚5.6 重1802.8g					研磨、敲打痕、玉用特殊石
302	縄文上器浅鉢	第X層	器高(残) 4.2	外)褐灰黄 内)黄褐 断)にぶい黄褐	良好	粗	外面縄文、沈線文 内面指オサエ	
303	縄文上器浅鉢	第X層	器高(残) 6.2	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)にぶい黄橙	良好	やや粗	外面縄文、沈線文 内面ハケ目	穿孔1ヶ所あり
304	縄文上器浅鉢	第X層	器高(残) 3.4	外)褐灰黄 内)黄褐 断)黒褐	良好	やや粗	外面ナデ、沈線文 内面指オサエとナデ	
305	弥生上器壺	第X層	器高(残)1.2	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)灰	やや良	密	外面ナデ 内面沈線、ナデ	

掲図番号	器種	出土地点	法量 (cm)	色調	成形	焼上	技法の特徴	備考
306	弥生土器 壺	第X VI層	口径(復)18.8 器高(残) 2.5	外)明赤褐 内)にぶい黄橙 断)黒褐	良好	密	外面ナデ、波状文 内面波状文	内面に黒斑あり
307	上師器壺	第X VI層	口径15.2 最大径(復)20.6 器高(残)14.2	外)にぶい黄橙 内)明赤褐 断)灰	不良	やや粗	内外面磨滅のため不明。外面体部ヘラミガキ(磨滅のため観察困難)	
308	上師器壺	第X VI層	口径(復)11.0 器高(残)5.2	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)黒	良好	密	外面ヨコナデ、タタキハケ、ナデ消し、 内面押さえ、ナデ	
309	上師器甕	第X VI層	口径(復)16.6 器高(残)6.2	外)にぶい黄橙 内)にぶい橙 断)黄灰	良好	密	外面口縁部ヨコナデ、体板状工具による ナデ 内面板状工具によるナデ	
310	弥生上器甕	第X VI層	口径(復)16.0 器高(残)8.5	外)にぶい黄橙 内)灰黄褐 断)褐灰	良好	やや粗	外面口縁部ヨコナデ、体部タタキ 内面口縁部ヨコハケとナデ消し、体部 板状工具によるナデ	
311	弥生土器壺	第X VI層	口径15.2 器高(残)15.0	外)にぶい橙 内)にぶい橙 断)灰黄	良好	密	外面ナデ、タタキの後ナデ消し、ハケ目 内面ナデ	外面煤付着
312	上師器 鉢	第X VI層	口径(復)9.4 器高(残) 4.4	外)黄橙 内)にぶい黄橙 断)灰黄褐	良好	密	外面ヨコナデ、タタキ 内面ヨコナデ、ナデ	
313	弥生土器鉢	第X VI層	口径(復)14.4 高(残)4.9 底径6.4	外)にぶい橙 内)にぶい黄橙 断)明灰	やや良	密	外面ナデ、指オサエ 内面ハケ目の後ナデ消し、ナデ、板ナデ	黒斑あり
314	石器 石鏃	第X VI層	長5.72 幅1.86 厚0.38 重5.6g			サヌカイト		全体にややローリング受け る、両面に素材面残す
315	石器 石鏃	第X VI層	長3.58 幅1.59 厚0.46 重2.2g			サヌカイト		全体に激しいローリング受け る、衝撃剥離により縁に 手数している

写　真　図　版

図版1　遺構(1)

1．調査地遠景（西より）

2．第1遺構面全景（南東より）

図版2　遺構(2)

1．第2遺構面東半部（北西より）

2．第2遺構面全景（南東より）

図版3　遺構(3)

1．第3遺構面全景（北東より）

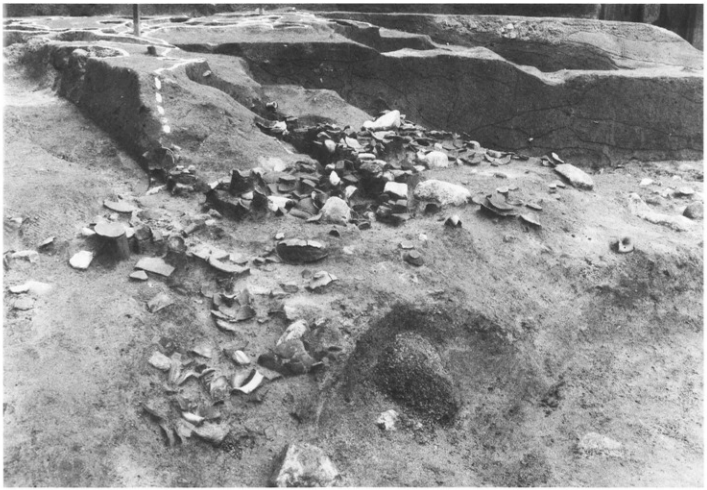
2．第3遺構面東半部（北西より）

図版4　遺構(4)

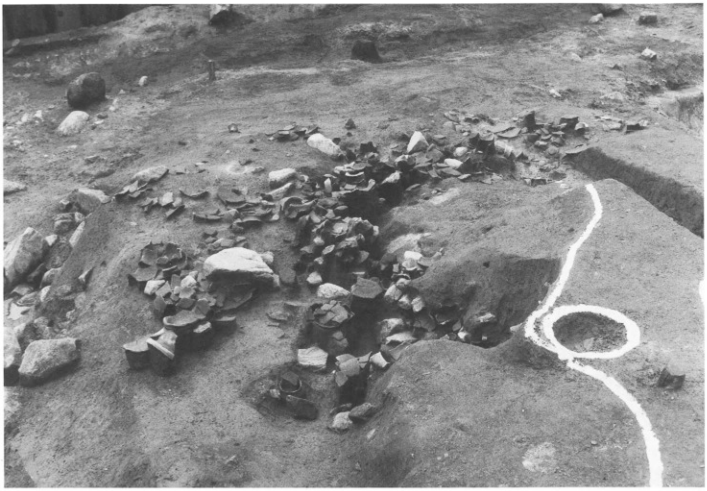
1．第3遺構面北東部（南東より）

2．NR-301断面（北西より）

1．土器群（南東より）



2．土器群（南西より）



1．土器群（北東より）

2．土器群（部分接写①）

1．土器群（部分接写②）

2．土器群（部分接写③）

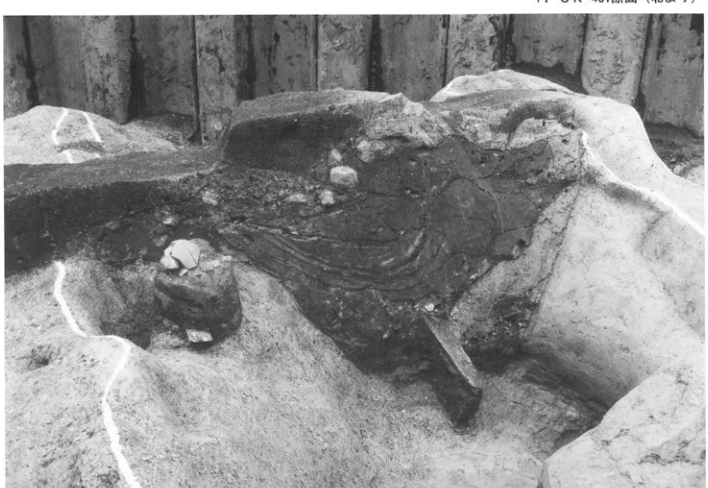
1．第4遺構面全景（南東より）

2．第4遺構面全景（北西より）

1．ＳＫ-401・402（北西より）

2．ＳＫ 401・402（南東より）

1．ＳＫ-401断面（北より）

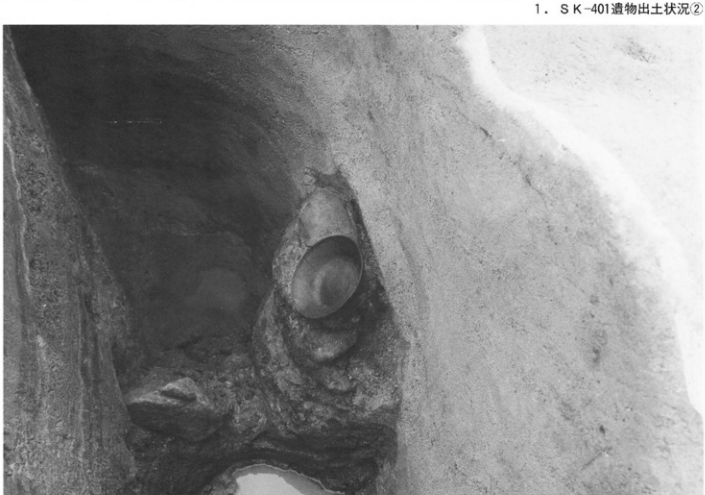


2．ＳＫ-402断面（北西より）

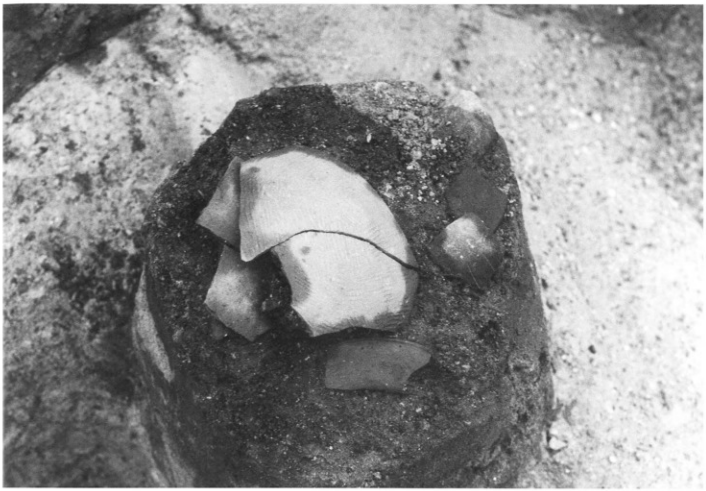
1．ＳＫ 401遺物出土状況①

2．同上（接写）

1．ＳＫ−401遺物出土状況②



2．ＳＫ−401遺物出土状況③

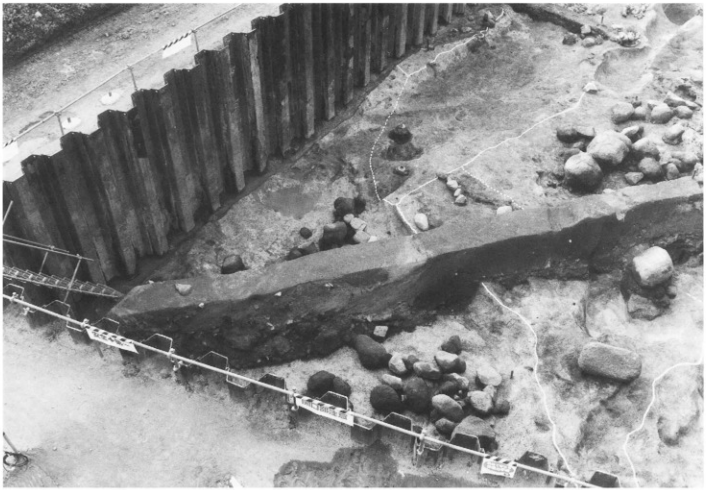


1．ＳＫ-402遺物出土状況①

2．ＳＫ-402遺物出土状況②

1．ＮＲ-401・402・403（北西より）

2．ＮＲ-401・402・403（南東より）



1．NR-401（北東より）

2．NR-403（南西より）

1．ＮＲ 402遺物出土状況①

2．ＮＲ 402遺物出土状況②

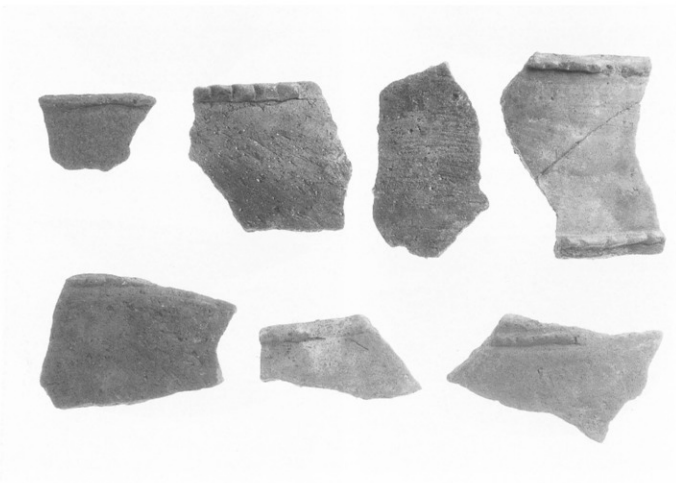
1．ＮＲ-402遺物出土状況③

2．ＮＲ 402遺物出土状況④

1．ＮＲ-402遺物出土状況⑤

2．ＮＲ-402遺物出土状況⑥

図版19　出土遺物(1)〔土器〕



図版20　出土遺物(2)〔土器〕

2

3

4

8

9

10

図版21　出土遺物(3)〔土器〕

11

13

14

15

16

17

図版22　出土遺物(4)〔土器〕

18

20

22

23

24

26

図版23　出土遺物(5)〔土器〕

27

32

34

40

43

45

図版24　出土遺物(6)〔土器〕

46

49

50

51

52

60

図版25　出土遺物(7)〔土器〕

62

71

96

98

100

101

図版26　出土遺物(8)〔土器〕

102

103

106

116

117

119

図版27　出土遺物(9)〔土器〕

127

128

130

132

136

144

図版28　出土遺物(10)〔土器〕

145

146

147

176

177

179

図版29　出土遺物(11)〔土器〕

227

227'

231

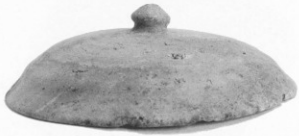
243

246

249

図版30　出土遺物(12)〔土器〕

252



255

256

258

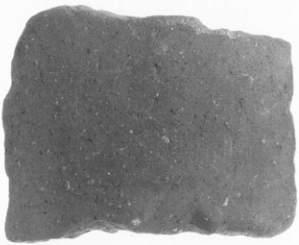
263

274

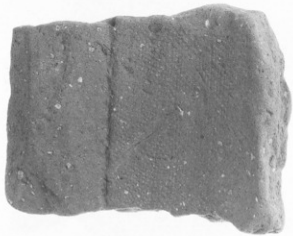
図版31　出土遺物(13)〔瓦〕

79

79'



81



81'

82

82'

図版32　出土遺物(14)〔瓦〕

83

83'

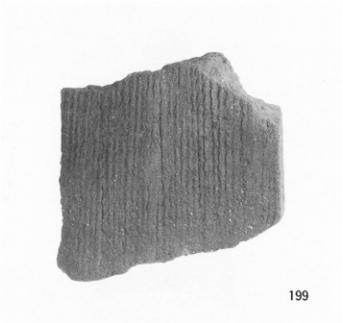
84

84'

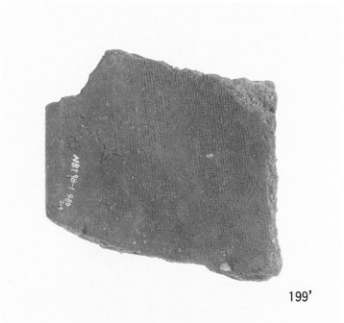
197

197'

図版33　出土遺物(15)〔瓦・土製品等〕



199

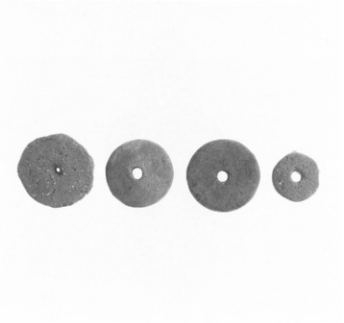


199'

75

78

84



図版34　出土遺物(16)〔石製品〕

87

88

90

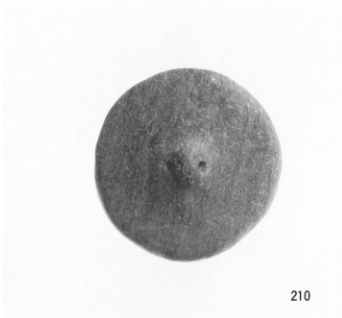
91

92

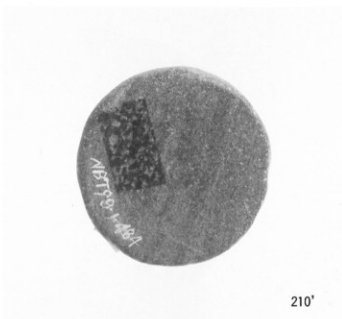
204

図版35　出土遺物(17)〔石製品〕

209


210

276


210'

277

278

図版36　出土遺物(18)〔石製品〕

279

280

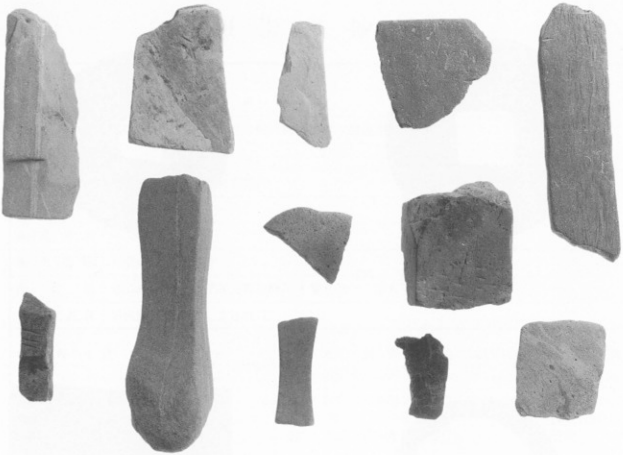
285

285'

286

286'

図版37　出土遺物(19)〔石製品〕

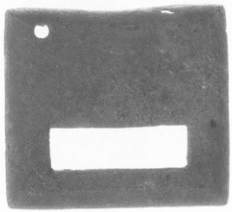


図版38　出土遺物(20)〔金属製品〕

211

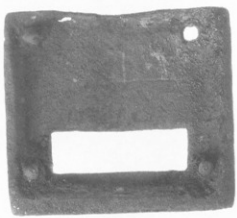
213

214



215

216



215'

報告書抄録

ふりがな	なべたがわ　いせき
書名	鍋田川遺跡Ⅲ
副書名	大阪産業大学校舎（15号館）建設に伴う発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	大東市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第28集
編著者名	中遠健一
編集機関	大東市教育委員会
所在地	〒574 0076　大阪府大東市曙町４番６号　ＴＥＬ　072-870-9105
発行年月日	平成20年（2008）３月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
鍋田川遺跡（なべたがわいせき）	大阪府大東市中垣内（おおさかふだいとうしなかがいと）	27218	6	34°42′25″	135°38′51″	1998年８月３日～1998年11月21日	511.94㎡	大阪産業大学校舎（15号館）建設

所収遺跡名	種別	主な時期	主な遺構	主な遺物	特記事項
鍋田川遺跡（なべたがわいせき）	集落	弥生時代以前	自然河川 土器群	中～晩期の縄文土器 後期の弥生土器 石製品	祭祀的状況を窺わせる弥生時代後期の土器群
		古墳時代	土坑、自然河川	土師器、須恵器 石製品	瀬戸内系の土師器
		奈良～平安時代	自然河川	土師器、須恵器 黒色土器、瓦器 石製品、金属製品	官衙の存在を想定させる銙帯の出土や鈴子を推定させる金属製品の出土
		中世	土坑、ピット 落込み状遺構、鋤溝 自然河川	土師器、須恵器、瓦器 瓦質土器、陶器	
		近世以降	土坑、ピット、鋤溝 自然河川	陶器、染付磁器、瓦	

印刷物番号
19－63

大東市埋蔵文化財調査報告第28集

鍋田川遺跡 Ⅲ

－大阪産業大学校舎（15号館）建設に伴う発掘調査報告書－

2008年3月31日発行

編集・発行　大東市教育委員会
〒574-0076　大東市諸福4番6号
TEL. 072-870-9105

印刷・製本　株式会社ミラテック
〒534-0025　大阪市都島区片町2丁目9番9号
TEL. 06-6354-3081